



USB 接続 計測ユニット

15BXL

取扱説明書



Ver. 6.2 平成 25 年 4 月 28 日  
ケース標準色を黒色に変更  
Ver. 6.2 平成 23 年 11 月 6 日  
ドライバインストール更新  
Ver. 6.2 平成 21 年 12 月 12 日  
Ver. 6.1 平成 21 年 1 月 16 日  
Ver. 6.0 平成 20 年 1 月 15 日  
作成 平成 19 年 8 月 8 日

ダックス技研株式会社

---

---

## 機器使用に関する注意と警告

- (1) 本装置は産業用途として製造していますので、ご使用には電気一般の知識を必要とします。一般家庭にてご使用になる電気機器には使用できません。
- (2) 医療機器のほか特に高い電氣的絶縁性を必要とする用途には使用できません。
- (3) 接続の間違い、または操作の誤りによって、万一、対象となる相手方装置、または本装置のいずれかが故障しても、本装置は一切の責任を負いません。
- (4) 本装置を接続することにより、対象機器の電氣的な回路状態が変化する場合、直ちに本装置の使用を中止してください。
- (5) 本装置から、対象機器となる装置に異常電圧等がかかり、相手方装置が故障した場合においても、本装置は、相手方装置に関する一切の責任を負いません。

## ご使用の前に必ずお読み下さい。

- (1) 製品添付のUSBメモリには、ご購入いただいたユニット固有の校正ファイルが入っています。計測ソフトの動作に必要なものです。大切に保管してください。

- (2) ご使用になるパソコンにデバイスドライバをインストールしてください。

計測ユニットに添付の データレコーダソフト は、ご使用になるパソコンに、専用のデバイスドライバをインストールしないと動作しません。  
本説明書の「デバイスドライバのインストール」に従って、  
ご使用になるパソコンに、必ずデバイスドライバをインストールして下さい。

- (3) インストール手順に従ってドライバをインストールしてください。

ご提供しておりますCD-ROMには、ユーザサイドにてアプリケーションプログラムを作成される場合のために、(1) ダイレクト版と  
(2) 仮想COM版の2種類のドライバ、および、この両方に対応した  
(3) 複合版ドライバを収納しています。15B Xシリーズのデータレコーダソフトはダイレクト版または複合版にて動作します。  
この説明書では、複合版ドライバをインストールする手順を説明しています。  
ドライバを選択してインストールする必要がある、Windows98SE/Meのような旧OSをご使用の場合を除いて、この説明書の手順に従って、複合版ドライバをインストールしてください。

- (4) インストール時に間違ったドライバをインストールしてしまった場合

インストール手順を間違った場合には、ドライバのアンインストールを実行して後、再度、ドライバインストールを実行してください。アンインストール方法は、ドライバインストール方法の最後に説明しています。

---

---

# 目次

1. 機能	2
精度表	5
構成	6
サンプリング動作	7
外形図	8
2. ソフトウェアのインストールとUSB接続	9
2. 1 デバイスドライバのインストール	9
2. 2 計測ソフトと校正ファイルのインストール	15
2. 3 接続と設置	16
2. 4 計測プログラムの起動	16
2. 5 計測ソフトの削除	16
3. 操作方法	17
3. 1 キーおよびマウス操作	17
(1) 計測の開始と停止	19
(2) 計測間隔設定 (サンプリング間隔設定)	20
(3) アンプゲイン設定	20
(4) トリガ電圧設定	21
(5) トリガスロープ設定 (トリガ方向設定)	21
(6) トリガチャンネル設定	21
(7) フィルタ設定	22
(8) 操作対象チャンネルグループ選択	22
(9) グラフ縦軸目盛表示チャンネル選択	23
(10) 計測アンプを接続している場合の縦軸目盛表示	23
(11) グラフ縦軸表示倍率	23
(12) 入力モード (DC/AC/GND) の切換	24
(13) オフセットバランス機能	24
(14) 時間軸縮小表示	25
(15) グラフ上の電圧および時間の読取り	25
(16) 波形表示位置の変更	27
(17) モニタ画面スクロールと検索操作	29
(18) 計測中のスケール線表示消去	29
(19) キーロック機能	29
*** キー操作対応表 ***	30
3. 2 計測内容の表示	31
(1) 入力チャンネル電圧値表示	31
(2) 計測電圧値拡大文字表示 (最高/最低/振幅/平均値)	32
(3) 波形のグラフ表示	33
(4) トリガ状態の表示	33
(5) XY表示	34
3. 3 計測開始と停止トリガ条件および検索条件の設定	35
3. 4 印刷と記録および設定の保存/読込	
データファイル名変更	37
4. 入力信号の仕様	42
15BXL 製品内容	44

# 1. 機能

15BXLは、パソコンのUSBポートに接続して、8チャンネルのアナログ信号計測ユニットとして動作します。15BXLは、すべてのチャンネルに絶縁アンプを使用しており、USBインターフェイスと電氣的に絶縁しているほか、全チャンネルを相互に絶縁しています。

15BXLシリーズの高分解能版（15BXL-816）は、ユニット内部の高速デジタル信号処理により、入力電圧をフルレンジに対して最大65500（16bit）にて分割する能力があります。

15BXL計測ユニットは、製品添付の計測ソフトをパソコンにインストールすると、高性能データレコーダとなります。計測ソフトは、信号波形を表示するモニタ機能のほか、XY表示機能もそなえています。

計測結果のファイル保存とファイルからの読込表示も可能です。計測データは、すべての計測間隔にて、きれめなく連続的に記録できます。また、保存した計測データは、わかりやすいテキストデータ形式ですので、表計算ソフトなどのアプリケーションソフトで容易に利用することができます。

製品型式	15BXL-816	高分解能	16bit版	8ch	全チャンネル相互絶縁
製品型式	15BXL-812	分解能	12bit版	8ch	全チャンネル相互絶縁

## 主な機能

1	パソコンとの接続	USBインターフェイス 専用USB機器として動作。
2	アナログ入力	8ch電圧入力 電圧範囲 $\pm 10\text{V}$ (アンプゲイン1のとき) 入力抵抗 $3\text{M}\Omega$ 以上 USBインターフェイスとは絶縁アンプにより絶縁 各チャンネル間も絶縁アンプにより絶縁
3	アンプゲイン	プログラマブル・ゲイン・アンプ内蔵。 パソコンから 1, 10, 100倍を切換え 全チャンネルを個別にゲイン設定できます。
4	AD変換	変換長 高分解能版 最大16bit (注1) 12bit版 12bit 計測レンジ アンプゲイン 1倍 $-10\text{V} \sim +10\text{V}$ 10倍 $-1\text{V} \sim +1\text{V}$ 100倍 $-0.1\text{V} \sim +0.1\text{V}$ 変換精度、直線性誤差、0Vオフセットは、精度表をご覧ください。
5	動作速度	最小サンプリング間隔の目安 添付計測ソフトにて、8ch動作 最大2.5kHz 4ch動作 最大5kHz
6	電源	+5V ( $\pm 5\%$ ) 約5W ただし電源投入時の突入電流を除く 製品添付の専用ACアダプタより電源供給します。 <b>警告</b> 製品添付以外のACアダプタを使用した場合、 ユニット本体が壊れることがあります。
7	絶縁抵抗	USB 0Vコモン $\leftrightarrow$ アナログ入力0V間 および、各チャンネル間 $200\text{M}\Omega$ 以上 (DC250V 25℃ 製品出荷時)
8	寸法と重量  ケース材質と色	重量 700g 寸法 160 (幅) $\times$ 100 (奥) $\times$ 70 (高) mm ただしコネクタ、ゴム足などの突起物を除く アルマイト 黒
9	動作周囲温度	0～40℃
(注1) ユニットから取得するデータは18bit形式となっていますが、 ユニット内部の残留ノイズの影響により、実質的な有効範囲は 最大16bit となります。また、有効範囲はサンプリング間隔によっても異なります。 詳細は精度表をご覧ください。		

## 計測プログラムの仕様

1	サンプリング間隔	0.2ms (注2) ~ 15sec 単位0.01ms ただし、0.2~0.39ms範囲は、4ch動作 時間精度 ±0.01%と±1μsのうち大きい値
2	グラフ表示チャンネル数	同時 8ch
3	電圧値モニタ表示	同時 8ch 1chを選択して電圧値の 拡大文字表示（最高／最低／振幅／平均値）可能
4	アンプゲイン	1倍、10倍、100倍 切換 全チャンネルを個別に ゲイン設定できます。 電圧レンジ ±10V、±1V、±100mV チャンネル個別に 1, 2, 5, 10, 20, 50, 100倍の グラフ拡大表示可能（12bit版では10まで） サンプリング間隔2ms未満では拡大表示10まで DCオフセットキャンセル可能
5	トリガ機能	トリガレベル（トリガ電圧）設定 トリガスロープ極性設定 トリガチャンネル選択 波形表示同期用トリガ機能のほか、 計測開始および計測停止のトリガ機能があります。
6	電圧読取り	マウスカーソルにて波形の電圧と時間軸を読取り可能
7	モニタ波形表示方法	サンプリング間隔 2ms以上では、 ペンレコーダのように、画面右側から左方向に波形を スクロールします。 サンプリング間隔 2ms未満では、 オシロスコープのように画面左端から、波形描画を 繰り返します。 スクロールと検索操作可能 計測停止時には、画面をスクロールして計測データ の検索と表示ができます。
	X Y表示	4系統同時表示可能
8	フィルタ機能	4レベルのLOWパスフィルタ機能があります。
9	印刷機能	画面ハードコピーをプリンタに出力します。
10	計測データ保存/読込	最大5個のデータを保存可能（ファイル名をユーザ にて変更すれば、個数の制限はありません。） 最大サンプリング数／1ファイル 524288個 自動ファイル保存の場合は、最大 約209万点 特別拡張記録機能を有効とすると、最大 約6億点
11	対応OS	Windows 7、Vista、XP、2000、Me、98SE
(注2) 最小サンプリング間隔は、CPU速度により異なります。 CPU 1GHz以上のパソコンを使用した場合です。 Windows 7、Vistaでは、2GHz以上のCPUが必要となります。		



## 12bit版 精度表

1	アンプゲイン ×1	測定可能範囲 -9.5V~+9.5V 精度 ±10mV 非直線性誤差 5mV 0Vオフセット ±10mV
2	アンプゲイン ×10	測定可能範囲 -980mV~+980mV 精度 ±1mV 非直線性誤差 0.5mV 0Vオフセット ±1mV
3	アンプゲイン ×100	測定可能範囲 -98mV~+98mV 精度 ±0.5mV 非直線性誤差 0.1mV 0Vオフセット ±0.5mV  [条件 周囲温度 25℃ 電源投入後10分経過時]
4	分解能	12bit

## 高分解能版 精度表

1	アンプゲイン ×1	測定可能範囲 -9.5V~+9.5V 精度 ±3mV 非直線性誤差 2mV 0Vオフセット ±3mV
2	アンプゲイン ×10	測定可能範囲 -980mV~+980mV 精度 ±0.3mV 非直線性誤差 0.2mV 0Vオフセット ±0.3mV
3	アンプゲイン ×100	測定可能範囲 -98mV~+98mV 精度 ±0.1mV 非直線性誤差 0.03mV 0Vオフセット ±0.1mV  [条件1 周囲温度 25℃ 電源投入後10分経過時] [条件2 サンプルング間隔2ms以上のとき]
4	分解能	<p>サンプルング間隔 10ms以上にて 16bit 2ms以上にて 14bit 2ms未満にて 12bit</p> <p>保存データは、いずれのサンプルング間隔でも、同じ形式ですが、ユニット内部の 残留ノイズの影響にて、サンプルング間隔により分解能が異なりますので、数値下位の有効範囲にご注意ください。</p> <p>ファイル保存データ形式の詳細は、応用説明書をご覧ください。</p>

## 15BXLの構成

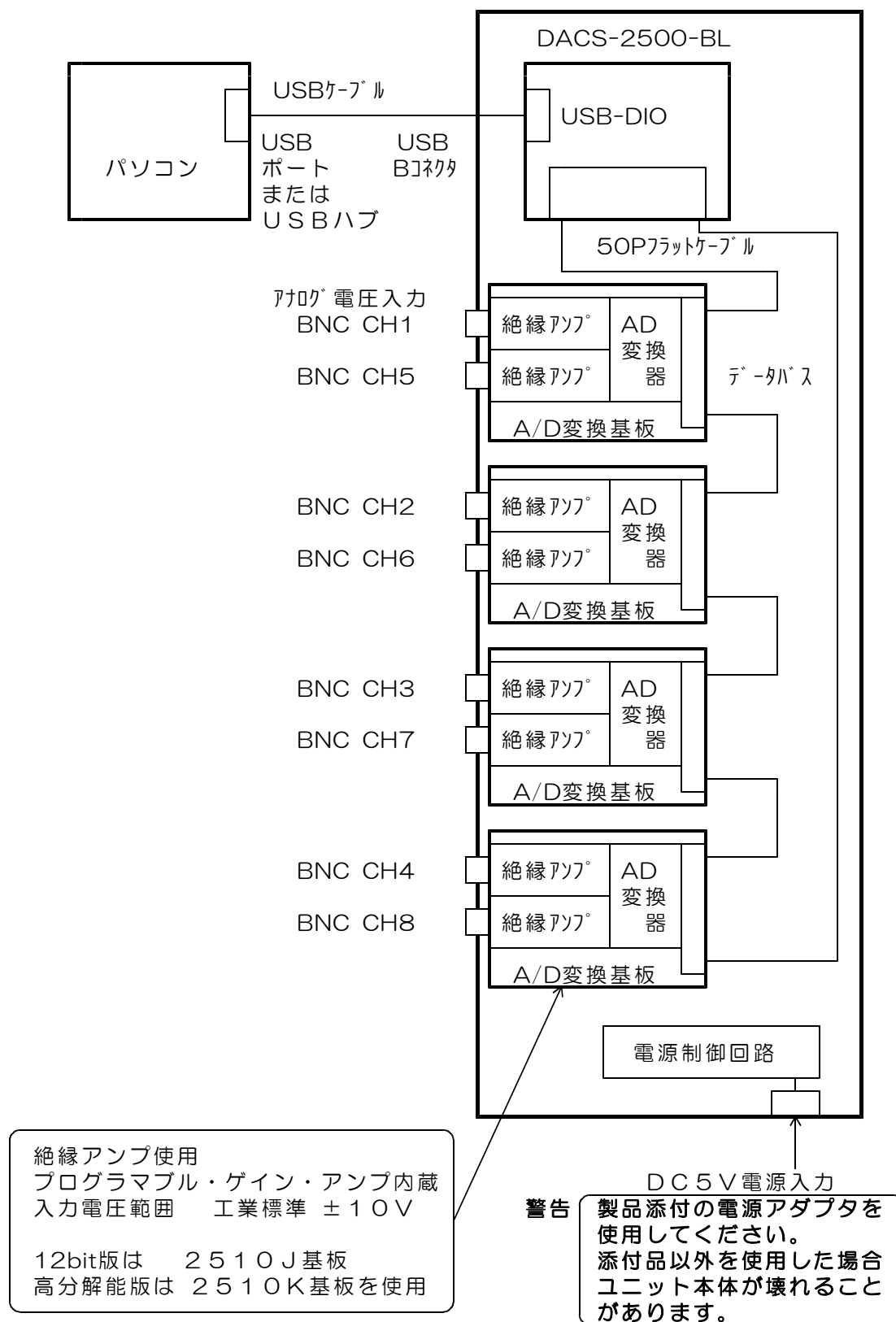
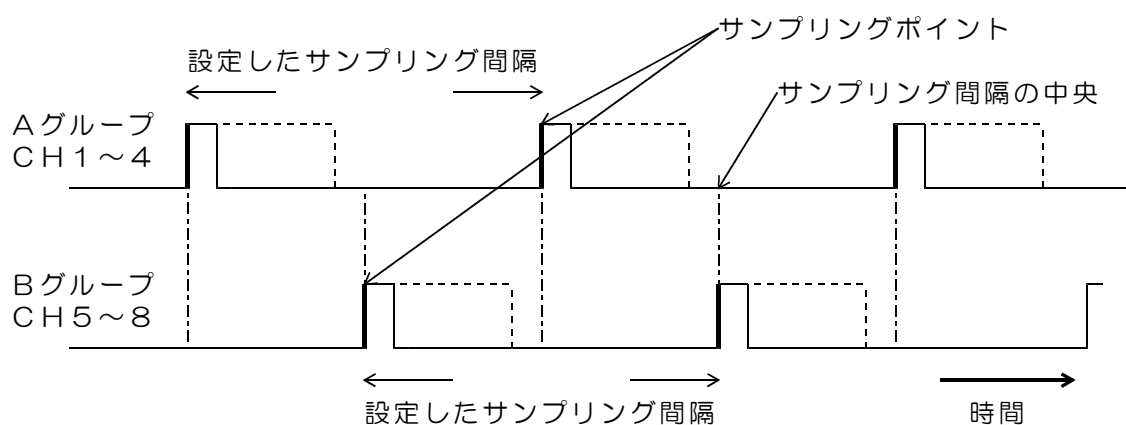


図1. 1 計測ユニット 15BXL の構成

## サンプリング動作



同一グループのCH 1～4は同時サンプリング  
同一グループのCH 5～8は同時サンプリング

各グループはサンプリング間隔の中央点での交互サンプリングとなります。

高速積算機能（応用説明書参照）が有効の場合は、破線期間でのフィルタリング処理を実行します。

高速積算機能が無効の場合、同一グループの4チャンネルは、太線位置での同一時刻サンプリング（1  $\mu$ s 以内）となります。

図 1. 2 サンプリング動作

## 外形図

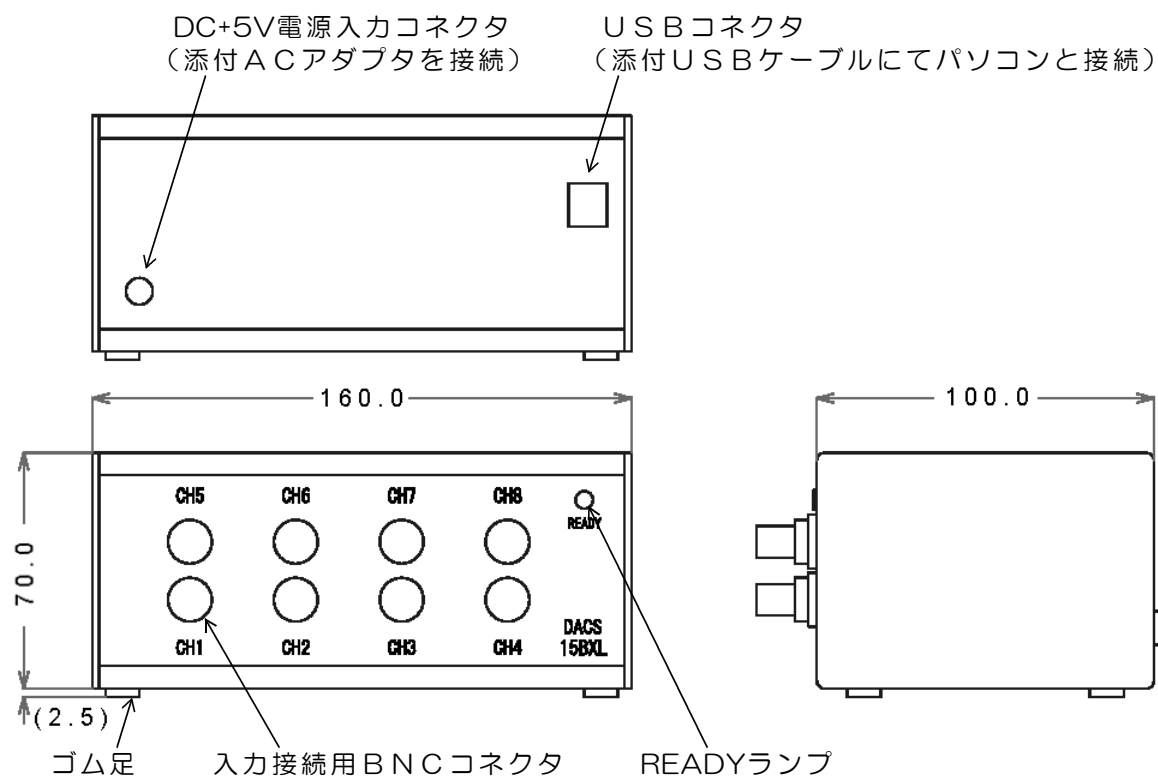


図 1. 3 計測ユニット 15BXL 標準タイプ 外形図

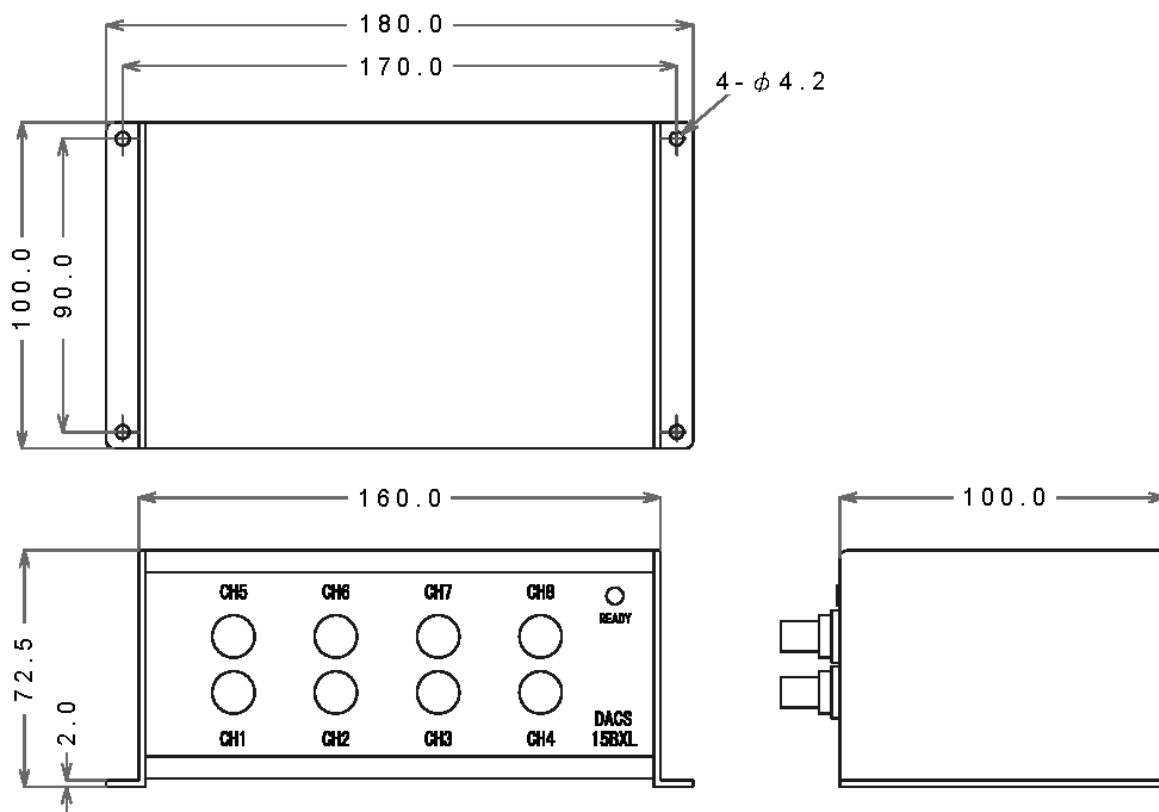


図 1. 4 計測ユニット 15BXL 固定用L側板タイプ 外形図

## 2. ソフトウェアのインストールとUSB接続

### 2. 1 デバイスドライバのインストール

\*\*\*\*\* インストール前にご確認ください。 \*\*\*\*\*

すでに弊社USB機器のドライバがインストールされている場合は、ドライバのインストールは不要です。また、旧バージョンのドライバがインストール済みの場合は、本項後半にある「ドライバのアンインストール方法」をご覧ください、ドライバを削除し、パソコンを再起動した後に、インストールを実施してください。

## Windows 7

- ① 計測ユニットをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストールを試みますが、ドライバ不明のため、インストールに失敗したメッセージが表示されます。
- ③ 以下、デバイスドライバ更新手順にて、ドライバをインストールします。

コンピュータ（右クリック） → プロパティ → デバイスマネージャー の順序にて、デバイスマネージャーを開きます。

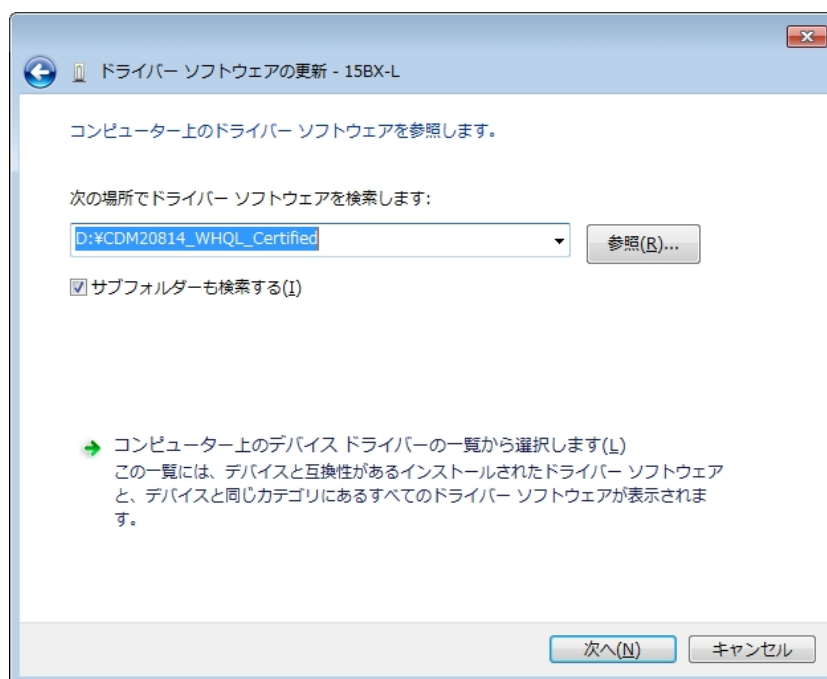
「ほかのデバイス」に接続したデバイスがあるのを確認。

8 c h 計測ユニットの場合、15BX-L となります。

このデバイス名を右クリックにて表示される画面で、

「ドライバーソフトウェアの更新」を選択する。

「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択する。



「参照」をクリックして、CD-ROM内の  
「**CDM2814\_WHQL\_Certified**」フォルダを指定し、  
「次へ」をクリック。 図はCD-ROMドライブ文字がDの場合です。

「ドライバソフトウェアのインストールを終了しました」という表示画面を閉じる。

以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了します。  
ここで、インストールエラーのポップアップメッセージが出てでも無視してください。

つづいて、上記と同じ手順にて、  
デバイスマネージャの「ほかのデバイス」にある **USB Serial Port** の  
ドライバを更新します。  
この手順にて、仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバの  
インストールが完了します。

\*\*\*\*\* ご注意 \*\*\*\*\*

計測ユニット内のUSBインターフェイスに使用しているチップメーカーである  
FTDI社ホームページには、自動インストール可能な実行プログラム形式のドライ  
バが掲載されています。このモジュールを使用すると、簡単な手順にてデバイスドラ  
イバをインストールできますが、ドライバをアンインストールすることができません。  
後述のアンインストールツールを使用しても、無効となります。自動インストール可  
能な実行プログラムを、FTDI社ホームページよりダウンロードして使用しないよ  
うにしてください。

\*\*\*\*\*

## Windows Vista

- ① 計測ユニットをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストール画面を表示します。
- ③ 画面表示にしたがつて、インストールをすすめてください。

「ドライバを検索してインストール」を選択。  
「オンラインで検索しません」を選択。  
「他の方法を試します」を選択。  
「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択。  
「次の場所で、ドライバソフトウェアを検索します」にて、  
CD-ROM内の  
「**CDM2814\_WHQL\_Certified**」フォルダを指定し、  
「次へ」をクリックする。

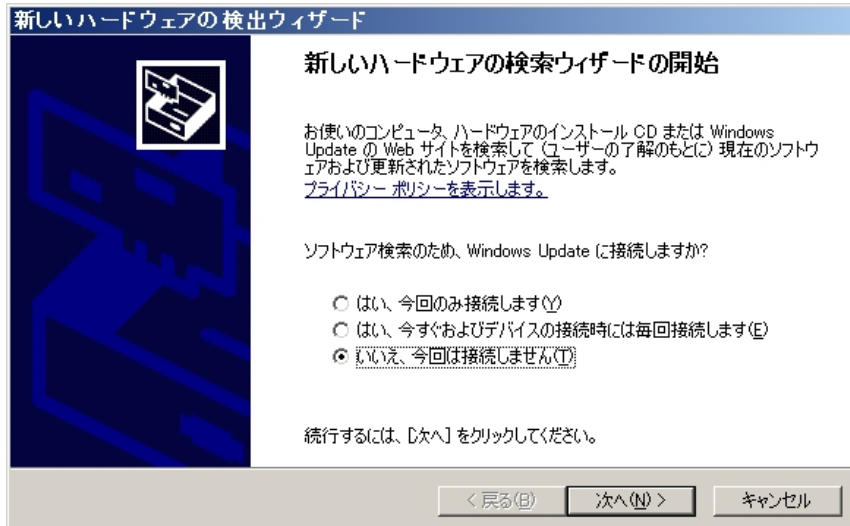
終了画面を閉じる

以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了します。

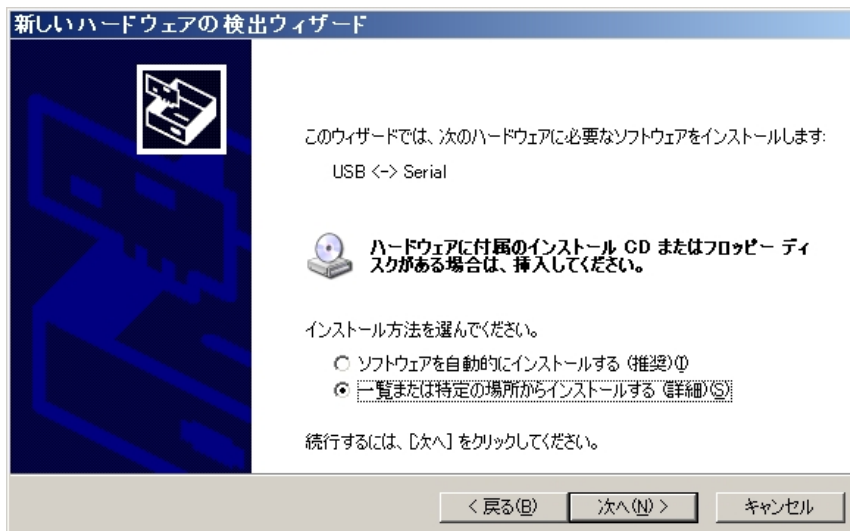
つづいて **Serial Port**（仮想COM版ドライバ）のインストール画面と  
なりますので、再び、同じ手順にてドライバをインストールします。  
仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバのインストールが  
完了します。

## Windows XP

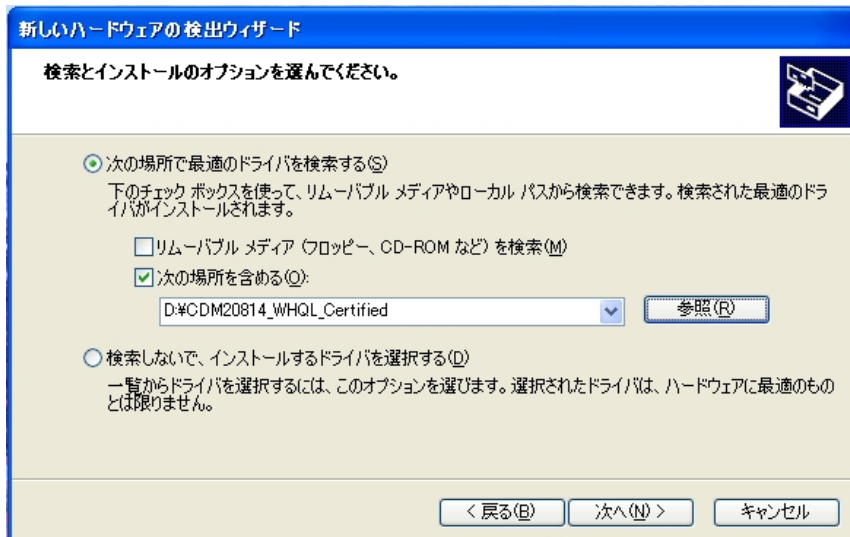
- ① 計測ユニットをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストール画面を表示します。
- ③ 画面表示にしたがって、インストールをすすめてください。



「いいえ、今回は接続しません」を指定し、「次へ」をクリック。

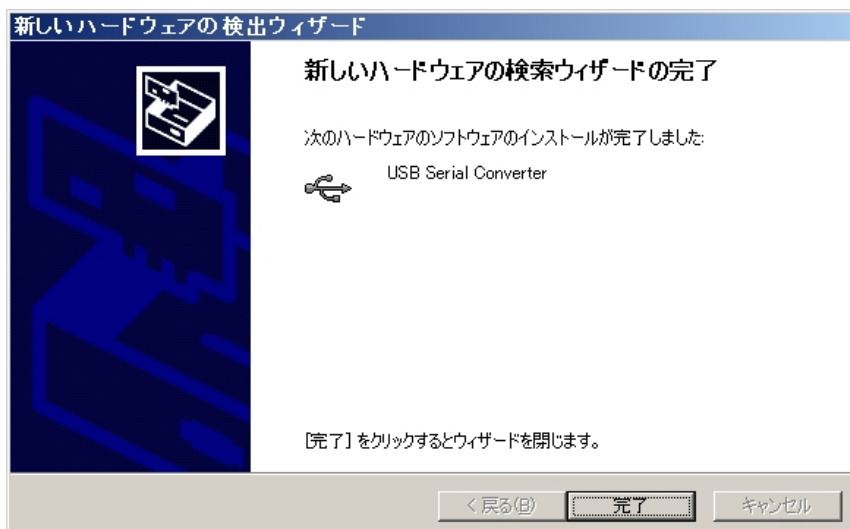


「一覧または特定の場所からインストールする」を選択し、「次へ」をクリック。



「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、  
「次の場所を含める」のみにチェックマークを入れる。

「参照」をクリックして、CD-ROM内の  
「CDM2814\_WHQL\_Certified」フォルダを  
指定し、「次へ」をクリック。  
図はCD-ROMドライブ文字がDの場合です。



「完了」をクリックし、インストールを終了します。

以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了しました。  
つづいて Serial Port（仮想COM版ドライバ）のインストール画面と  
なりますので、再び、同じ手順にてドライバをインストールします。  
仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバのインストールが  
完了します。



## Windows 2000

- ① 計測ユニットをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② OSがデバイスを認識して、ドライバインストール画面を表示します。
- ③ 画面表示にしたがって、インストールをすすめてください。

「検索ウィザードの開始」にて「次へ」をクリック  
「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」をクリック  
「場所を指定」のみを選択し、「次へ」をクリック  
「参照」をクリックして、CD-ROM内の  
「CDM2814\_WHQL\_Certified」フォルダを指定し、  
「OK」をクリック。

インストール開始画面にて、「次へ」をクリック  
インストール完了画面にて、「完了」をクリックし、インストールを終了します。  
以上で、ダイレクト版ドライバのインストールが終了します。

つづいて Serial Port（仮想COM版ドライバ）のインストール画面となりますので、再び、同じ手順にてドライバをインストールします。  
仮想COM版ドライバをインストールすると、すべてのドライバのインストールが完了します。

## 旧バージョンのドライバインストール方法

Windows 98SE Windows Me 対応

ドライバをインストールしていないパソコンにデバイスを接続すると、Windowsのドライバインストール画面があらわれますので、この画面指示に従ってインストールを進めます。

- ① 計測ユニットをパソコンのUSBポートに接続します。
- ② ハードウェアの検索画面があらわれますので、「次へ」をクリックします。
- ③ 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を指定し、「次へ」をクリックします。
- ④ 「検索場所を指定」のみにチェックマークを入れます。  
重要 特に、リムーバブルドライブ（CD-ROMなど）のチェックマークは、必ずはずしてください。  
CD-ROMドライブに、製品添付のCD-ROMをセットし、  
「製造元のファイルのコピー元」に、D:\¥15BX¥FTdirect と入力します  
この例は、CD-ROMドライブ文字がDの場合です。  
「次へ」をクリックし、画面指示に従って進めてください。  
途中で、ftd2xx.cat がみつかりませんという表示がでることがありますが、  
この場合はスキップをクリックしてください。
- ⑤ 「インストールされました」と表示がでますので、「完了」をクリックします。

## ドライバのアンインストール方法

### Windows 7, Vista, Xp, 2000 の場合

- ① 計測ユニットをパソコンからはずしてください。
- ② CD-ROMのルートディレクトリにある **CDMUninstaller.exe** を、Cドライブのルートディレクトリにコピーします。
- ③ コマンドプロンプトを起動します。  
起動手順 プログラム →> アクセサリ →> コマンドプロンプト
- ③ コマンドラインに `cd \¥` と入力して、cドライブのルートに変更します。  
(`\`はスペース `¥`はEnter)
- ④ `CDMUninstaller \0403 \6001 \-l` と入力します。  
(`\`はスペース `-l` はマイナスと英小文字のエル `¥`はEnter)

通常は、以上の処理にてアンインストールが完了します。新旧ドライバを入れ替えるような場合で、このあとのドライバの再インストールが正常に行えないことがあります。このような場合は、添付CD-ROMのルートディレクトリーにある CDM\_inst.pdf (USB接続デバイスドライバインストール手順説明書) をご覧ください。

### Windows 98SE Windows Me の場合

各デバイスドライバを収納しているフォルダ内に、アンインストールプログラムがありますので、こちらのプログラム (FTDIUNIN.exe) を起動してアンインストールを実行してください。

## 2. 2 計測ソフトと校正ファイルのインストール

任意の名前のフォルダを作成し、そのフォルダの中に、製品添付CD-ROMの15BXLフォルダにある実行プログラムファイルをコピーしてください。

たとえば Cドライブのフォルダ Program Files のなかに、D15BXL という名前のフォルダを作成し、このフォルダの中に、

計測プログラムの実行ファイル **D151ADL.EXE** をコピーします。

\*\*\*\*\* **重要** \*\*\*\*\*

続いて、製品に添付しているUSBメモリのフォルダ 15BXL にある

校正ファイル **D151ADL\_XXXXXXXXX.col** をコピーします。  
XXXXXXXXX の部分は、各ユニット固有のシリアル番号になっています。

このファイルをコピーしない場合は、正確な電圧値を計測できませんのでご注意ください。  
また、使用するパソコンを変更した場合は、必ず、計測ユニットのシリアル番号に一致した校正ファイルを、実行ファイルのあるフォルダにコピーして使用してください。

校正ファイルを紛失された場合は、本資料最終ページに掲載の、ダックス技研株式会社電子機器営業まで、ユニット背面記載のシリアル番号を添えて、E-mailにてお問合せください。

\*\*\*\*\*

作成したこのフォルダは、3. 4項にて説明する、設定ファイルと計測データファイルの書き込みフォルダにもなりますので、ご利用される方が、わかりやすい名前のフォルダにしてください。

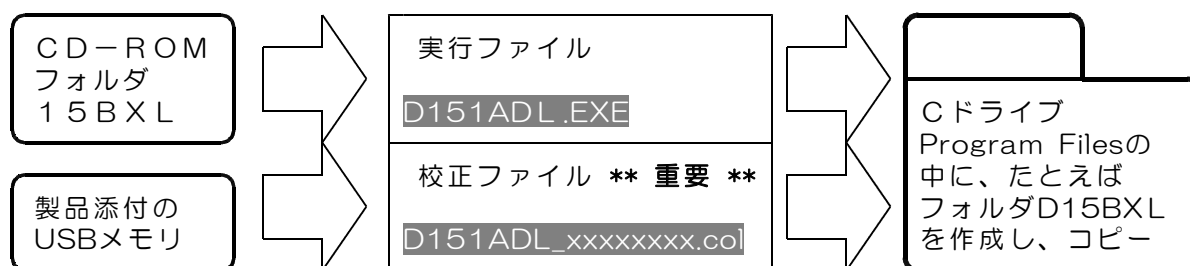


図2. 1 計測プログラム実行ファイルのコピー

## 2. 3 接続と設置

### 設置に関するお願い

ユニットの内部発熱により、ケース表面は周囲温度よりも10℃近く上昇します。ケース上面は放熱のためのアルミ板としていますので、別の機器を置くなどにより、ケース上面をふさぐことは避けてください。

### 接続

- (1) 製品添付のACアダプタをユニット背面のコネクタに接続します。  
**警告** 製品添付以外のACアダプタを使用した場合、本体が壊れることがあります。
- (2) ACアダプタをAC100Vコンセントに接続します。
- (3) 製品添付のUSBケーブルにて、パソコンのUSBポートと計測ユニット本体を接続します。使用するケーブルは、パソコン側がAタイプコネクタ（平たい方）、計測ユニット側がBタイプコネクタとなっています。ケーブルの最大長は5mです。

USBケーブルにてパソコンと接続して、パソコンから計測ユニットにUSBインターフェイス用の電源が正常に供給されると、ユニット前面にある緑色のLEDランプ（READYランプ）が、2Hz程度のゆるやかな周期で点滅します。このときに、ACアダプタからの主電源供給がないと、点灯期間が短いフラッシュ状の点滅になります。フラッシュ状に点滅するときはACアダプタの接続を確認してください。

その後、Windowsを起動して、計測ユニットがUSB機器として正常に認識されると、READYランプが連続点灯にかわります。Windowsを起動している状態で計測ユニットを接続すると、2～3秒にて連続点灯になります。デバイスドライバをインストールしていない場合は、ゆるやかな点滅のままにて連続点灯に変化しません。

（参考）READYランプは、計測実行中には8Hz程度の周期で高速に点滅をします。

## 2. 4 計測プログラムの起動

「D151ADL.EXE」をマウスにてダブルクリックして、プログラムを起動します。

プログラム起動直後には、プログラムが接続している計測ユニットの検索処理を実行します。計測ユニットを接続していない場合は、10～20秒間、計測ユニットが見つかるまで検索を続けます。計測ユニットを接続していない場合は、プログラム起動後、**シフトキーを押す**と、検索動作をキャンセルすることができます。

## 2. 5 計測ソフトの削除

D151ADL.EXE および校正ファイルを、インストール時にコピーしたフォルダから削除します。また、レコーダソフトを動作させると、このフォルダ内に、計測データ保存フォルダ（RC1～RC5）を自動生成していますので、不要の場合はこのフォルダも削除します。

デバイスドライバの削除は、「ドライバのアンインストール方法」をご覧ください。

## 3. 操作方法

### 3. 1 キーおよびマウス操作

操作は、キー入力とマウス操作にて行います。

キー操作にて、大文字／小文字の指定のない場合は、いずれも受け付けます。

計測ソフトのウィンドウ上では、マウスカーソルは、波形の電圧と時間を読取るために、十字形状となっています。さらに、計測停止中に、波形表示画面内にマウスポインタをもってゆくと、波形表示画面内全体に、クロスハアーカーソルを表示し、波形の電圧／時間を容易に読取ることができるようになっています。

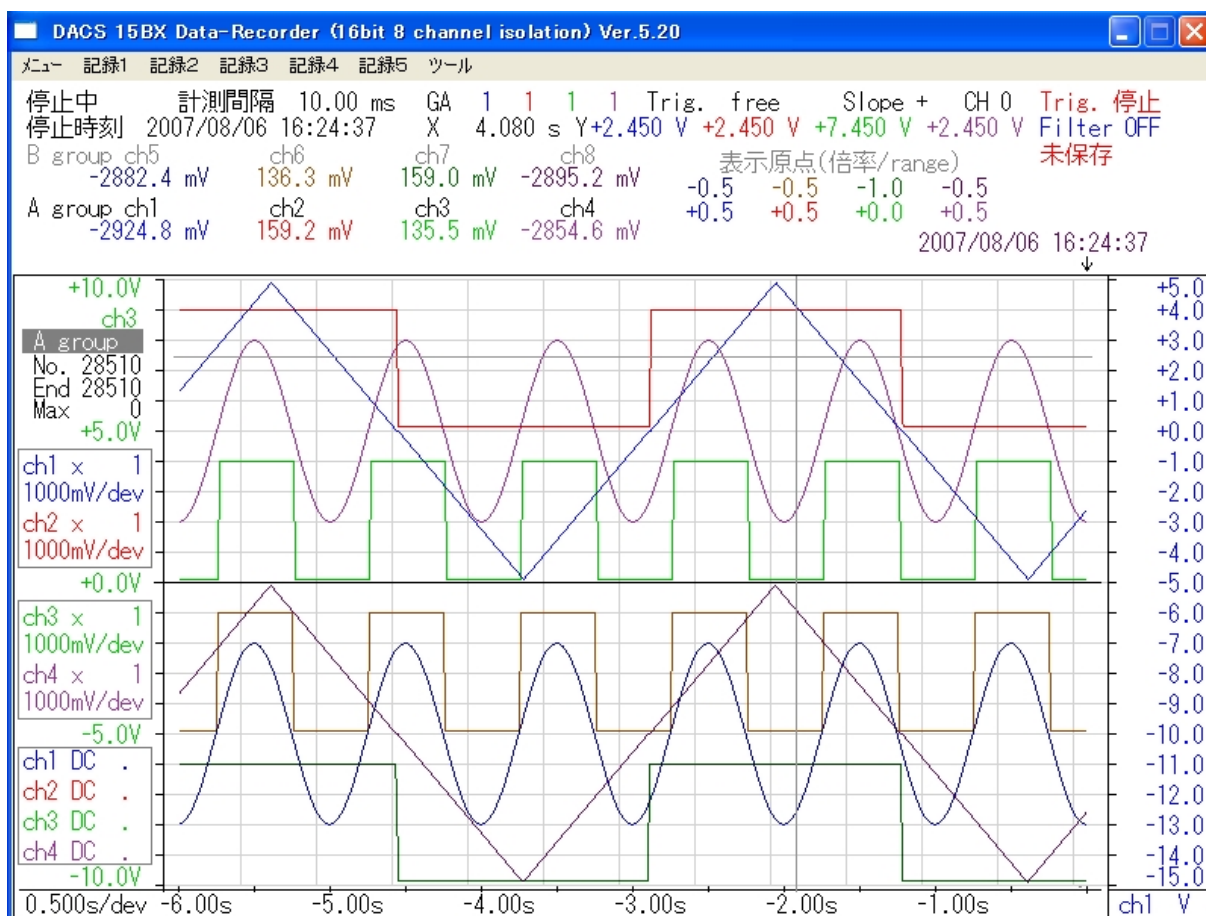


図3. 1 15BXL計測ソフト【モニタ画面】全体図

- (注1) 上図は高分解能版の例です。  
12bit版の場合は、4行目と6行目の各チャンネル電圧表示の桁数が1桁少なくなります。
- (注2) Windowタイトル文字表示に、ソフトウェア起動時に自動識別した計測ユニットの種類を、下記のように表示します。  
(16bit 8 channel isolation) : 高分解能版  
(12bit 8 channel isolation) : 12bit版

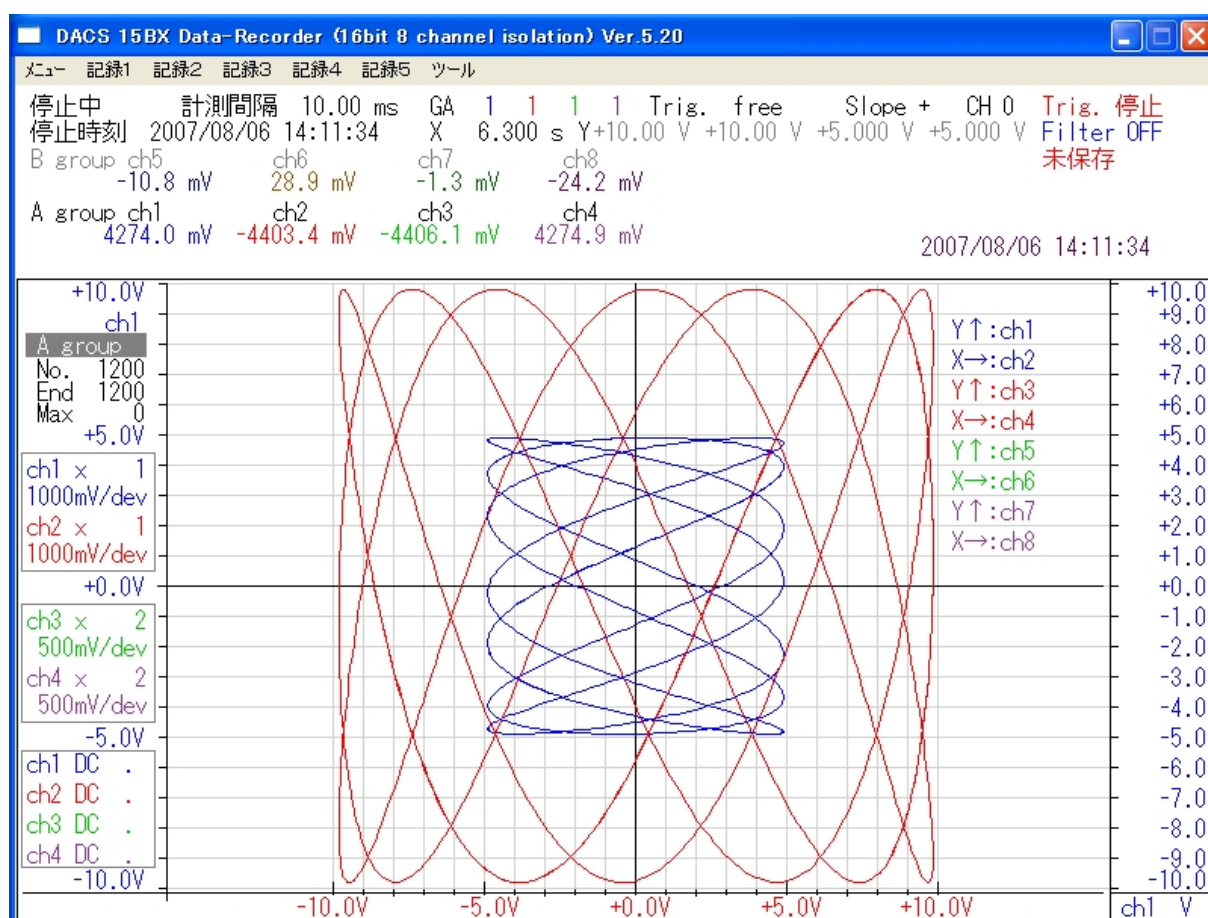


図 3. 2 15 B X L 計測ソフト【XY表示画面】全体図

- (注 1) 上図は高分解能版の例です。  
12bit版の場合は、4行目と6行目の各チャンネル電圧表示の桁数が1桁少なくなります。
- (注 2) Windowタイトル文字表示に、ソフトウェア起動時に自動識別した計測ユニットの種類を、下記のように表示します。  
(16bit 8 channel isolation) : 高分解能版  
(12bit 8 channel isolation) : 12bit版

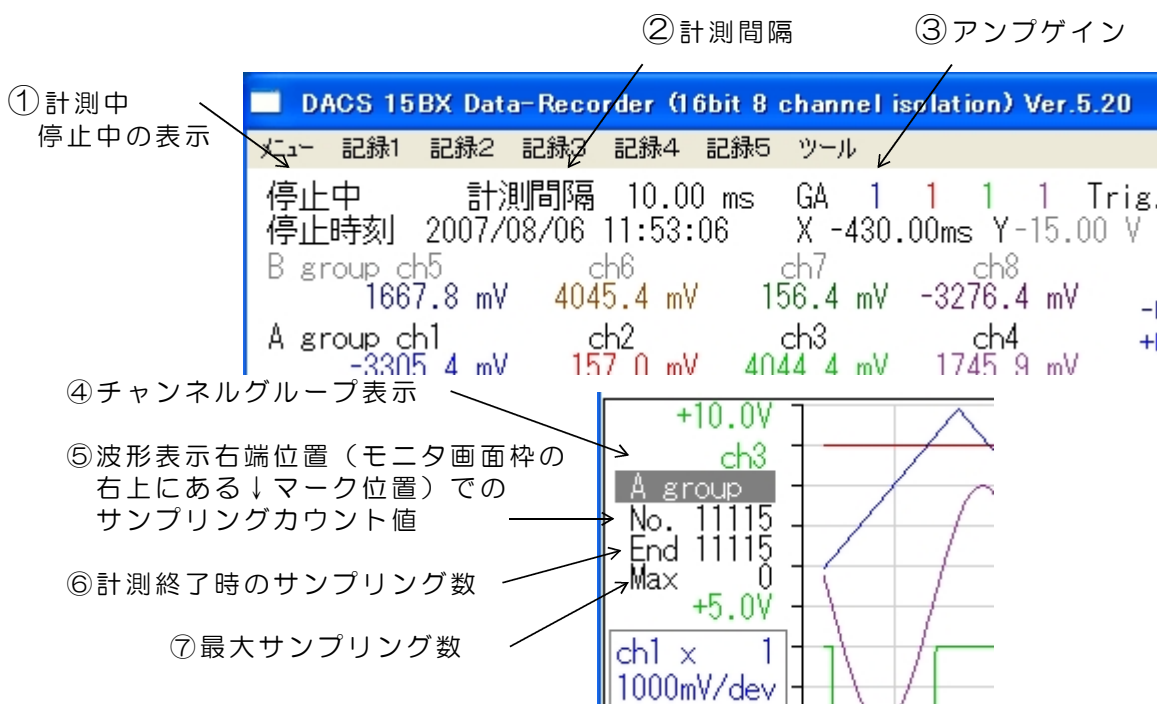
## (1) 計測の開始と停止

Gキーを押すか、または、画面上の「停止中」をマウス左クリックすると、計測を開始します。この方法にて開始した場合、計測データをパソコンのメモリ上に格納しますので、計測データを保存するためには、3. 4項に説明するファイル保存操作が必要です。一方、「記録1～5」をクリックして「計測1～5」を指定すると、計測データをファイルに書き込みながら並行して計測を実行します。

操作の詳細は、3. 4項の「印刷と記録および設定の保存／読込」をご覧ください。

Sキーを押すか、または、画面上の「計測中」をマウス左クリックすると、計測を停止します。

計測中は、ユニット前面にある緑色のLEDランプが、8 Hz程度の周期で高速点滅します。（計測間隔が2秒以上の場合は、計測間隔の半分の周期にて点滅します。）



上図の「最大サンプリング数」の部分 **Max** を、マウス左クリックすると、画面2行目の左端に **最大データ数 =** と表示がでますので、数字キー、BSキーを使用して、最大サンプリング数を入力します。数値入力後、エンターキーを押して、最大データ数を確定します。ESCキーを押すと入力をキャンセルできます。最大値は 524288 です。

計測開始後、最大サンプリング数にて設定したサンプリングが終了すると、計測は自動的に終了します。

(注) サンプリング間隔が100ms以下では、最大サンプリング数を、多少、超えたところで自動停止することがあります。

Sキーまたはマウスにて「停止操作」をすると、設定した最大サンプリング数になる前に計測を停止させることができます。

最大サンプリング数に0を設定すると、計測は自動停止することなく、停止操作をするまで、エンドレスに続きます。計測ソフトを起動した直後は、この設定になっています。最大値の 524288 を超えると、カウンタは0より再びカウントを始めます。最大値を超えた状態で計測を停止すると、停止時点のデータを最後として、そこから 524288 個 前までのデータを記録しています。

最大サンプリング数に1を設定すると、サンプリング数のカウンタを手動にて更新することができます。ENTERキーを押すと+1、BS (バックスペース) キーを押すと-1となります。

## (2) 計測間隔設定 (サンプリング間隔設定)

計測間隔の数値上で、数値中央より左側にてマウス左クリックすると、計測間隔が増加します。数値中央より右側にてマウス左クリックすると、計測間隔が減少します。変更数値は次の例のように変化します。

例    —    0.5 ms    $\longleftrightarrow$    1    $\longleftrightarrow$    2    $\longleftrightarrow$    5    $\longleftrightarrow$    10 ms    —

これ以外の詳細な計測間隔を設定するには、次のようにキー入力します。

Tキーを押すか、画面上の「計測間隔」をマウス左クリックすると、画面2行目の左端に    計測間隔＝    と表示がでますので、数字キー、小数点キー、BSキーを使用して、計測間隔を入力します。数値入力後、エンターキーを押して、計測間隔を確定します。

ESCキーを押すと入力をキャンセルできます。

設定単位は ms (小数点 0.01 ms まで有効)

設定範囲は    0.2 ms ~ 15000 ms

0.2 ~ 0.39 ms の範囲は、ch1 ~ 4 の 4 ch 動作

計測中にサンプリング間隔を変更すると、いったん計測を停止し、約0.5 sec後に計測を自動的に再開します。

## (3) アンプゲイン設定

アンプゲインの数値上で、マウスを左クリックすると、各チャンネルのアンプゲインが次のように変化します。

→    1    →    10    →    100    →

アンプゲインは、選択しているチャンネルグループのみ表示しています。

Aグループの場合   ch1, ch2, ch3, ch4、

Bグループの場合   ch5, ch6, ch7, ch8 を左側から順に表示しています。

チャンネルグループの選択は④チャンネルグループ表示部分をマウスにて左クリックすると変更することかできます。

キー入力による方法

次の各キーを押すと対応するチャンネルのゲインが変化します。

Aグループの場合

a (小文字) ch1    A (大文字) ch2    b (小文字) ch3    B (大文字) ch4

Bグループの場合

a (小文字) ch5    A (大文字) ch6    b (小文字) ch7    B (大文字) ch8

計測中にアンプゲインを変更すると、いったん計測を停止し、約0.5 sec後に計測を自動的に再開します。

アンプゲイン1    入力電圧範囲    DC    -10 V ~ +10 V

アンプゲイン10    入力電圧範囲    DC    -1 V ~ +1 V

アンプゲイン100    入力電圧範囲    DC    -0.1 V ~ +0.1 V



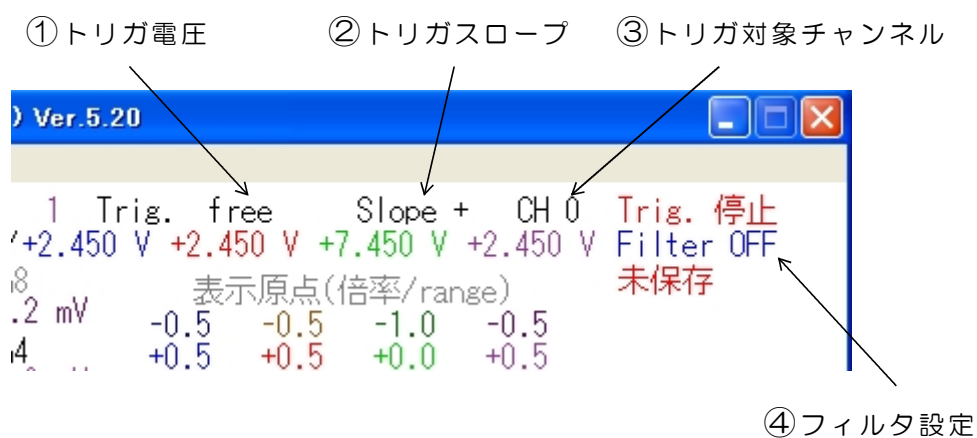
#### (4) トリガ電圧設定

波形表示グラフ上の任意の位置にマウスポインタを移動させ、マウスを左クリックすると、その位置の電圧値をトリガ電圧として設定します。

(注意) 画面左側の縦軸目盛軸線上ではクリックしないようにしてください。  
ここでクリックすると、波形表示位置変更機能が動作します。

画面2行目の「Y軸表示欄」にマウスポインタ位置の電圧値を表示しています。  
クリックしたトリガ電圧値は、画面1行目の `Trig.` 欄に表示します。

(注) 設定したトリガ電圧は、グラフ上のピクセル単位で記憶していますので、アンプゲインまたは各チャンネルの表示倍率を変更すると、そのレンジにあわせて、電圧値が変わります。



#### (5) トリガスロープ設定 (トリガ方向設定)

+キー または -キーを押すか、画面上の `Slope` をマウス左クリックすると、トリガスロープを + または - に変更することができます。  
トリガスロープ (+) では、入力電圧が+方向に変化して、設定電圧値をクロスしたところでトリガがかかります。  
トリガスロープ (-) では、入力電圧が-方向に変化して、設定電圧値をクロスしたところでトリガがかかります。

#### (6) トリガチャンネル設定

Cキーを押すか、画面1行目にある `CH` をマウス左クリックすると、トリガ対象チャンネルを変更することができます。  
キーを押すか、マウス左クリックごとに、CH番号が +1 となります。  
CH 0 では、トリガが無効となり、フリーラン状態となります。  
CH 1~CH 8 では、指定したチャンネルの電圧値とトリガスロープが一致したところで、トリガがかかります。

## (7) フィルタ設定

Fキーを押すか、画面1行目にある **F i l t e r** をマウス左クリックすると、フィルタの設定を変更することができます。

キーを押すか、マウス左クリックごとに、**F i l t e r** 番号が、下記の順序にてかわります。

**F i l t e r O F F** では、A/D変換した結果を、そのままグラフ表示します。

**F i l t e r 1**～**10** では、次のような一次ローパスフィルタが機能します。

**F i l t e r 1** 時定数 (計測間隔)×1.5 の一次ローパスフィルタ

**F i l t e r 2** 時定数 (計測間隔)×3 の一次ローパスフィルタ

**F i l t e r 5** 時定数 (計測間隔)×7.5 の一次ローパスフィルタ

**F i l t e r 10** 時定数 (計測間隔)×15 の一次ローパスフィルタ

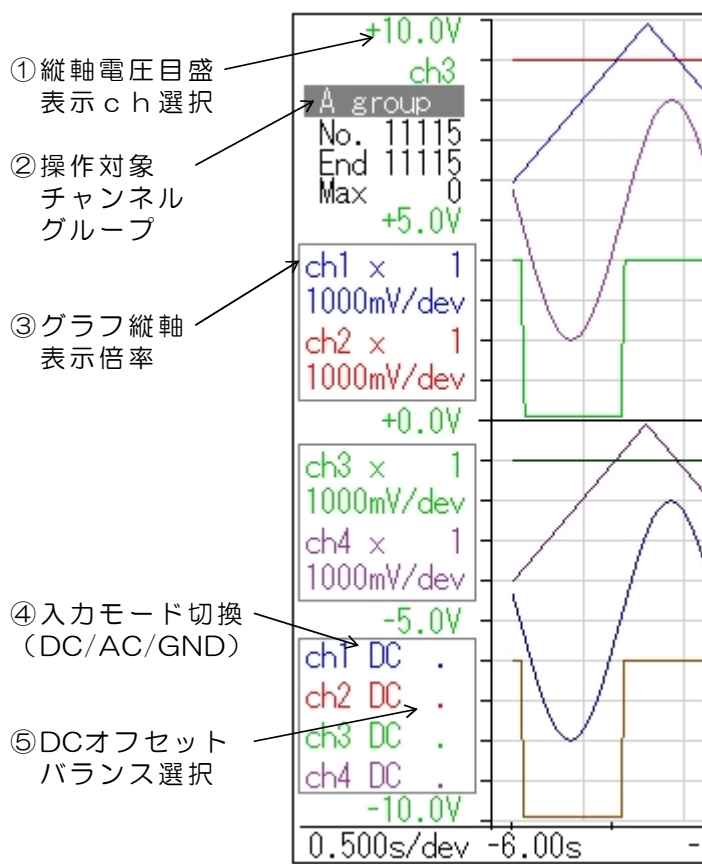
(注) このフィルタは、パルス状のノイズに対しては有効ですが、A/D変換データのデジタル処理に行っているため、ノイズ成分として、計測間隔に近い周波数から、それよりも高い周波数領域で、計測間隔とほぼ同期した繰り返し信号の入力があると、このフィルタ機能では信号を減衰させることができません。

この対策方法は、応用説明書の「高域周波数ノイズ除去機能」をご覧ください。

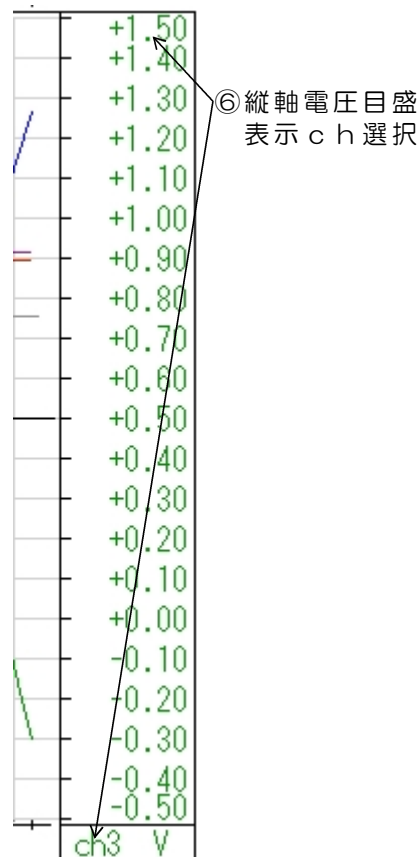
## (8) 操作対象チャンネルグループ選択

Dキーを押すか、グラフ表示の左端／上方にある **A g r o u p** または **B g r o u p** をマウス左クリックすると、操作対象となるチャンネルグループを変更することができます。Aグループではch1～4、Bグループではch5～8の操作ができます。

プログラム起動直後は、Aグループになっています。



画面左側の表示



画面右側の表示

## (9) グラフ縦軸目盛表示チャンネル選択

グラフ縦軸目盛表示は画面の左側と右側の両方にあります。左右にある表示は、それぞれ別々のチャンネルの目盛表示とすることができます。

電圧目盛表示の最上段の数値、または電圧目盛表示チャンネルのc h文字を、マウス左クリックすると、表示対象チャンネルを切替えることができます。  
すなわち、左画面の例では+10Vまたはその下にあるc h 3の部分、右画面の例では+1.50または画面最下段にあるc h 3の部分をマウス左クリックすると、表示対象チャンネルを切替えることができます。

**画面右側の表示は、ユーザ設定単位とすることができます。たとえば 重量 kg 温度 ℃ などと表示することが可能です。**設定方法の詳細は「応用説明書」をご覧ください。

## (10) 計測アンプを接続している場合の縦軸目盛表示

画面右側の縦軸目盛表示で、キーボードのコントロールキー(C t r l)を押したまま、上記(9)項の操作をすると、目盛表示が100倍スケールとなり、計測アンプ(15 B X A M P)のセンサ信号入力部分の電圧と一致した表示となります。  
もう一度同じ操作をすると、もとの表示に戻ります。  
計測アンプ入力側表示のときは、c h 1 ~ c h 8の文字がD A 1 ~ D A 8となります。  
画面左側の縦軸目盛表示については、この操作は無効です。計測ユニット入力電圧のみの表示となります。

## (11) グラフ縦軸表示倍率

K (大文字) キーを押すか、画面上 c h 1 × の左半分領域をマウス左クリックすると、チャンネル1の縦軸表示倍率が大きくなります。  
k (小文字) キーを押すか、画面上 c h 1 × の右半分領域をマウス左クリックすると、チャンネル1の縦軸表示倍率が小さくなります。  
同様に、L (大文字) および l (小文字) キーが c h 2、  
M (大文字) および m (小文字) キーが c h 3、  
N (大文字) および n (小文字) キーが c h 4 に対応しています。  
Bグループを選択しているときは、各キーが c h 5 ~ 8に対応しています。

表示倍率は 1, 2, 5, 10, (20, 50, 100)の順番にて切替ります。  
20以上の拡大倍率は、高分解能版のみ有効となります。12bit版では指定できません。  
画面上に表示している倍率は、  
(チャンネルのアンプゲイン) × (表示倍率) となっています。

表示倍率 1 では、アンプゲインにて決まる入力電圧範囲の、F U L Lレンジを表示します。表示倍率 100 では、入力電圧範囲の1/100を画面全体に拡大した表示となります。波形表示位置変更機能またはD Cオフセットキャンセル機能と組み合わせることにより、D Cオフセットのある信号の変化部分のみを、拡大して表示することができます。

(注) サンプル間隔が2 m s未満のときは、高分解能版でも、拡大率は10までが有効です。拡大率20以上を指定すると「拡大率過大」と表示します。

(参考) グラフ表示上の縦軸F U L Lスケールピクセル数は400です。

A D変換分解能は高分解能版の場合、最大65500ですので、100倍の拡大表示にて、ほぼA D変換の最小単位での表示となります。

## （１２）入力モード（DC/AC/GND）の切換

○（オー）キーを押すか、画面上の `ch1 DC` をマウス左クリックすると、表示が `ch1 AC` となり、チャンネル１のDCキャンセル機能が動作します。もう一度クリックすると、▼の表示になり、`ch1`の波形表示が強制的に0V表示となります。▼とした場合は、0V基準線とかさなって波形表示がなくなります。▼とした場合で、表示原点を変更している場合は、変更した原点位置にチャンネルの0Vラインを描画します。もう一度クリックすると、DCに戻ります。

Pキーを押すか、画面上の `ch2 DC` をマウス左クリックすると、`ch2`を変更することができます。さらにQキーが `ch3` に、Rキーが `ch4` に対応しています。Bグループを選択しているときは、各キーが `ch5～8`に対応しています。

DCキャンセル機能を有効とすると、計測スタート時（またはファイルからデータ読み込み開始時）に、一時的にカットオフ周波数の高い、ハイパスフィルタをかけた状態として、DC成分を除く処理をします。このため、計測開始直後には、波形が歪んだ状態となりますが、100～200サンプリング後は、極めてカットオフ周波数の低いハイパスフィルタに戻しますので、その後は、歪みの少ない波形表示となります。また、計測途中にDCオフセットが大きく変化した場合は、一度、設定をDCに戻して、再度、ACとすると、短時間でDC成分をキャンセルすることができます。

## （１３）オフセットバランス機能

計測アンプ 15BXAMP を接続して微小電圧計測を行う場合に、このオフセットバランス機能にて、センサおよびアンプのオフセット電圧をキャンセルして計測することができます。

各チャンネルの入力モード（DC/AC）切換の右側に・マークの表示があります。この部分をマウスにて左クリックすると、BAL という表示に変わり、オフセットバランス機能が有効になります。同じ位置を再びマウスにて左クリックすると、オフセットバランス機能は無効になります。

オフセットバランス機能にてオフセット電圧をキャンセルする方法

- （１）該当するチャンネルのオフセットバランス機能を有効にして、計測を開始します。
- （２）入力モード（DC/AC）切換にて、そのチャンネルの入力モードをACにします。レコーダソフトは、この間にオフセット電圧の計測を行います。  
（DCの部分をマウスにて左クリックするとACになります。）
- （３）入力モード（DC/AC）切換にて、入力モードをDCにすると、（２）にて計測したオフセット電圧分をキャンセルして、データ計測を行います。  
（ACの部分をマウスにて左クリックすると、▼に続いて、DCになります。）

計測を停止して、再び計測を開始した場合も、オフセット電圧値は有効になっています。

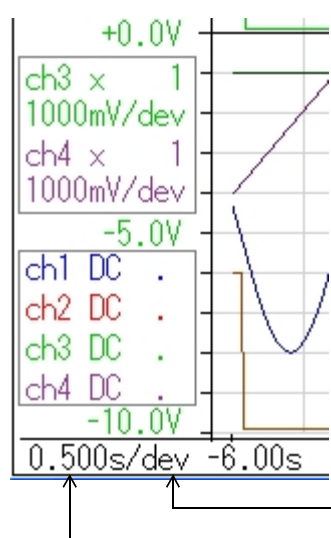
また、オフセットバランス機能は無効に戻した場合は、オフセット電圧値は0Vとして計測を実行しますが、再度、オフセットバランス機能を有効にした場合は、以前に計測したオフセット電圧値を有効としてオフセットバランス機能が動作します。

オフセット電圧値を変更する場合は、再度（１）（２）の操作を行います。

- (注1) オフセットバランス機能を有効にしてデータ計測を実行した場合、計測データのファイル保存では、オフセット電圧をキャンセルしたデータを保存します。
- (注2) 保存したデータの読み込みを行った場合は、オフセットバランス機能を有効にしても、オフセット電圧のキャンセルは実行しません。
- (注3) レコーダソフトの起動直後、および保存したデータの読み込みを行った場合は、BAL の表示が灰色になっていて、オフセットバランス機能が働いていないことを示します。その後、一度でも計測を実行すると、BAL は各チャンネルの表示色となり、オフセットバランス機能が働いていることを表示します。

## (14) 時間軸縮小表示

モニタ波形表示画面にて、計測中および計測停止後に、横軸（時間軸）の縮小表示ができます。また、保存したデータの読み込みを行った場合は、読み込後に同様の操作ができます。



(注1) 計測中の縮小表示は、計測間隔 2 m s 以上の場合に可能となります。また、計測途中に変更すると、新たに表示する波形が、指定の縮小表示となります。

(注2) 計測停止のとき、またはデータ読み込後で、データ数が 600 以下（1 画面表示に満たない）ときには、縮小表示はできません。

縮小表示率変化範囲

1 → 2 → 5 → 10 → 20 → 50 → 100 →  
→ 200 → 500 → 1000

画面左下隅にある

横軸スケール表示 \*\*\* /dev の右半分領域を  
マウスにて左クリックするか、x (小文字) キーを押すと、  
縮小表示率が小さくなります。

横軸スケール表示 \*\*\* /dev の左半分領域を  
マウスにて左クリックするか、X (大文字) キーを押すと、  
縮小表示率が大きくなります。

計測データ数が最大データ数となっているときで、縮小率（最大）1000 とすると、計測データの全体を 1 画面に表示することができます。  
縮小表示となっているときにも画面のスクロール操作が可能です。  
データ検索操作は「縮小率 1」の場合のみ実行可能です。

## (15) グラフ上の電圧および時間の読取り

モニタ波形表示枠内にマウスを移動すると、そのマウス位置の電圧値（Y 位置）と、時間（X 位置）を、画面上 2 行目に表示します。

Y 位置表示は、ch1 ch2 ch3 ch4 を個別に表示しています。

B グループ選択の場合は、ch5～8 の表示となります。

表示モードは、(1) マウス Y 位置の電圧を表示する標準モードと、

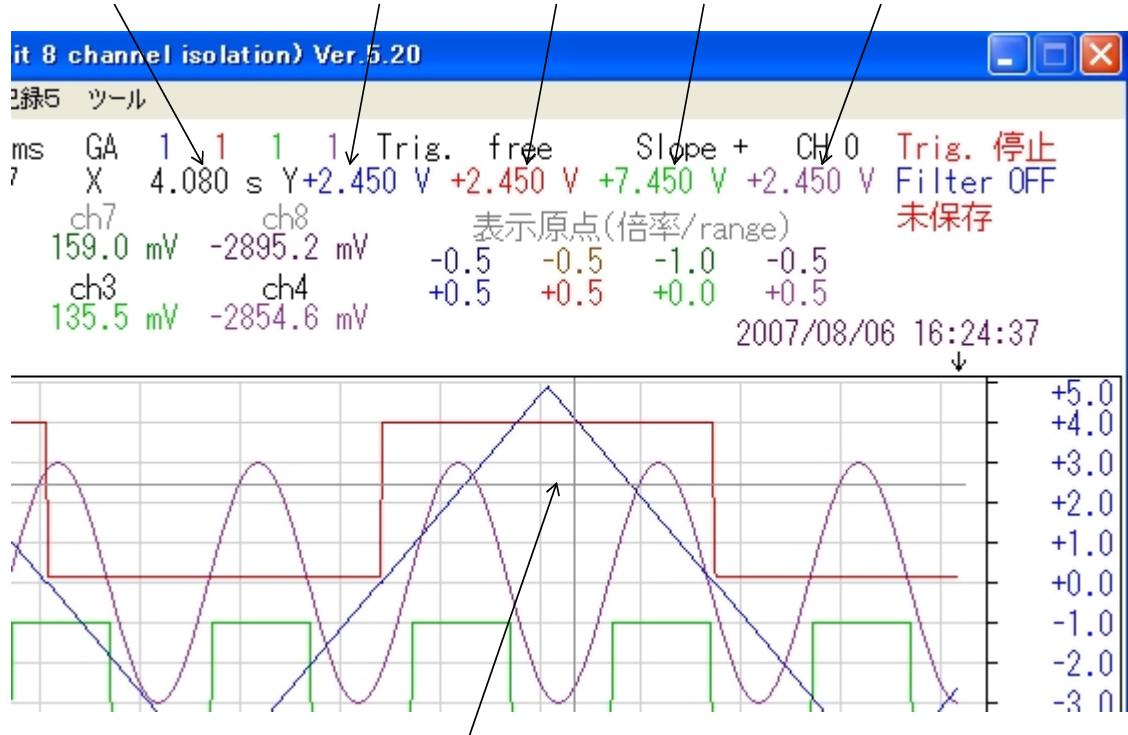
(2) マウス Y 位置に関係なく、マウス X 位置の各チャンネル計測電圧値を表示する自動モードがあります。

マウスの右クリックにて、表示原点を変更することができます。グラフ表示範囲外にてマウスを右クリックすると、表示原点をグラフ原点に戻すことができます。

表示原点を変更すると、X 軸表示と Y 表示（標準モードのみ）は、原点に指定した位置を 0 V として表示します。

## 標準モードの表示

- ① マウス位置の時間  
 ② CH 1  
 ③ CH 2  
 ④ CH 3  
 ⑤ CH 4 (Aグループ)  
 ② CH 5  
 ③ CH 6  
 ④ CH 7  
 ⑤ CH 8 (Bグループ)



⑥ マウスカーソル位置 (クロスヘアカーソルの交差点)

右側の縦軸目盛表示を操作して、計測アンプ入力電圧表示に変更しているときは、マウスY位置表示は100倍スケール表示となります。また、ユーザ単位を設定しているときは、ユーザ設定単位の表示 (たとえばkgなどの表示) となります。ユーザ単位の設定方法詳細は「応用説明書」をご覧ください。

## 自動モードの表示

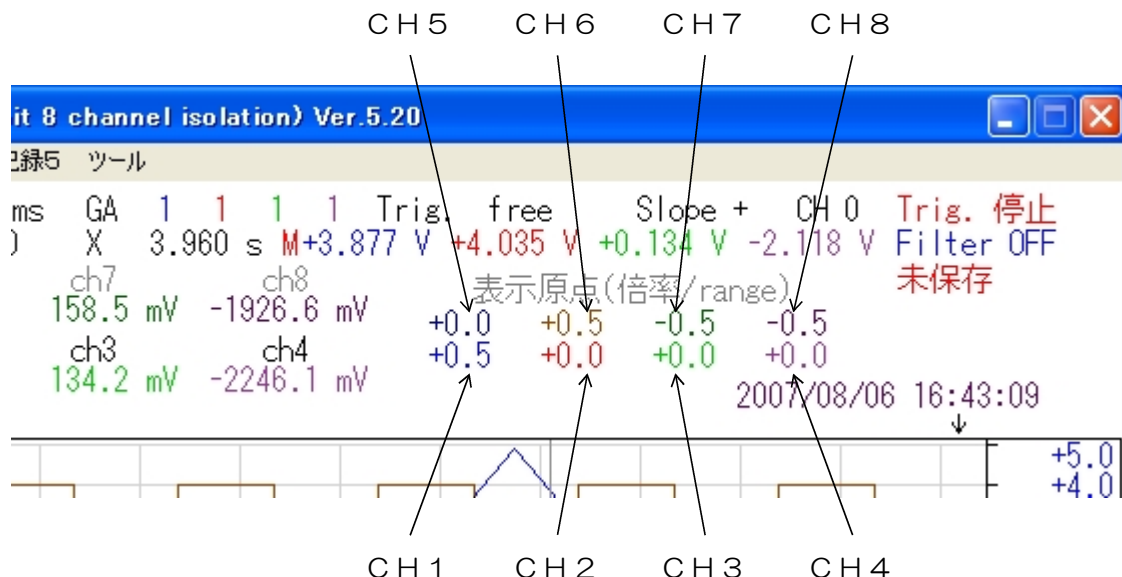


マウスX位置のCH 1, 5 計測電圧 CH 2, 6 CH 3, 7 CH 4, 8  
 マウスカーソルは縦方向ラインのみとなります。

## (16) 波形表示位置の変更

波形表示位置（縦軸の電圧表示位置）を各チャンネルごとに変更することができます。変更はモニタ画面にて操作します。モニタ画面にて変更した内容は、XY表示画面の横軸（X軸）にも反映します。

表示位置を標準位置から変更した場合、  
画面右上方に、各チャンネルの表示原点シフト量（倍率）を表示します。



### 表示位置変更方法1（キー入力による操作）

（操作1）Yキーを押します。  
↓  
画面2行目の左端に「表示原点シフトch=」と表示がでます。

（操作2）変更するチャンネル番号（1～8）を入力します。

↓  
↓  
↓

例 第1チャンネルの場合 1 [Enter] と入力します。

（操作3）「chx表示原点 =」と表示がでます。  
入力電圧0V相当のときに表示する位置を、画面全体の割合（倍率）にて入力します。  
基準0V位置から、上方向（+電圧方向）に  
FULLスケール移動する場合 1 [Enter]  
基準0V位置から、下方向（-電圧方向）に  
FULLスケール移動する場合 -1 [Enter]  
指定単位 0.1  
指定範囲 -100～100（+方向のとき+記号入力は不要）

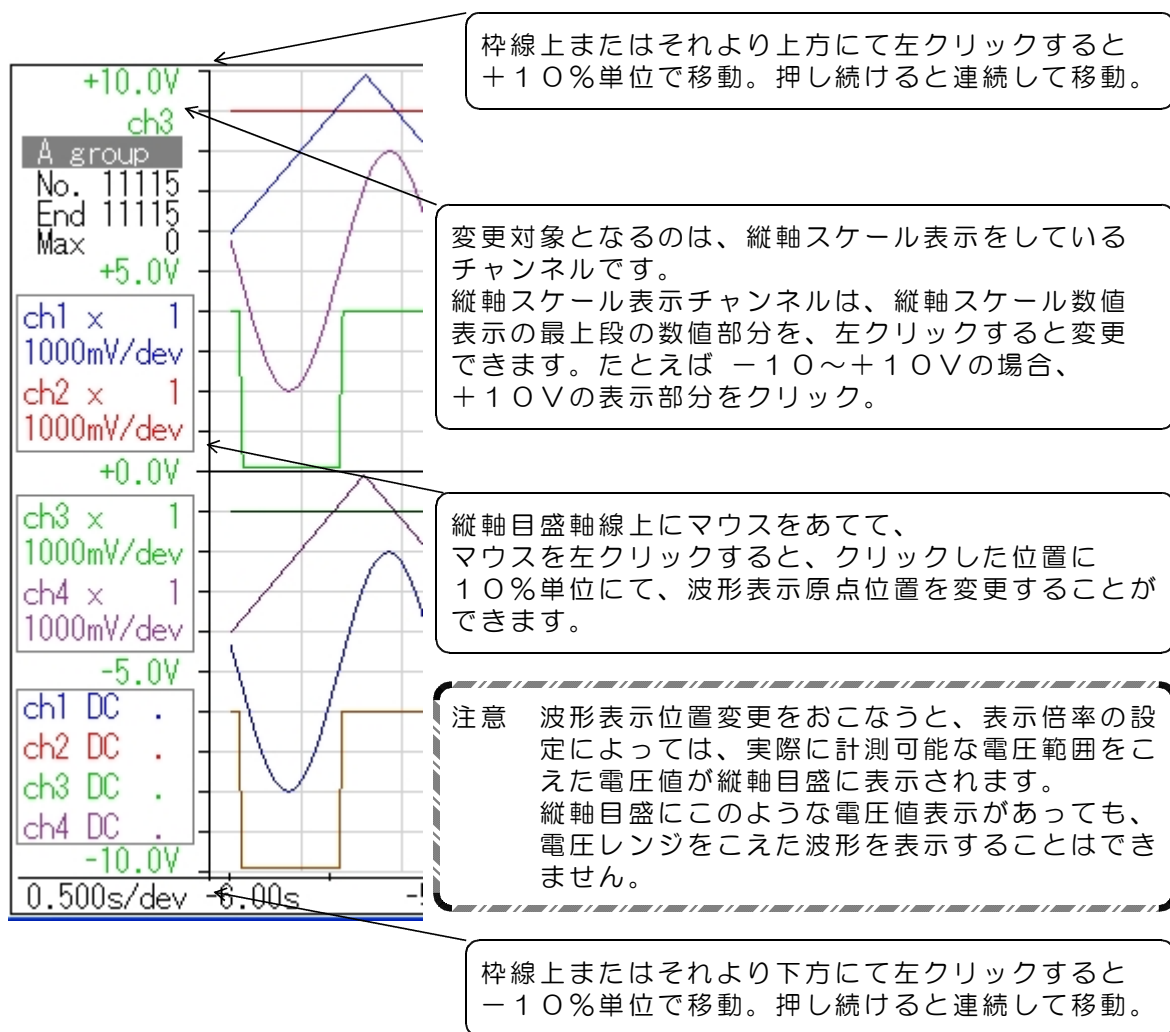
例 基準0V位置から、下方向（-電圧方向）に、30%/FULLスケール移動する場合 -0.3 [Enter] と入力します。



## 表示位置変更方法2（マウスによる操作）

モニタ表示画面にて、画面左側の縦軸目盛軸線上にマウスをあてて、マウスを左クリックすると、クリックした位置に10%単位にて、波形表示原点位置を変更することができます。また、縦軸目盛線の延長上をクリックすると10%単位にて原点位置を移動することができます。マウス左ボタンを押し続けると、連続して移動します。

（注）XY表示画面の場合、マウスによる操作はできません。モニタ表示画面にて操作をするか、キー入力による操作にて指定してください。



画面右側の縦軸目盛表示線上でも同様の操作ができます。





## (17) モニタ画面スクロールと検索操作

計測結果またはファイルから読込んだデータのモニタ表示画面を、左右にスクロールして、任意の時刻のモニタ波形をみることができます。また、トリガ条件を指定して条件の一致した波形部分を検索することもできます。検索条件の設定方法は、3. 3項「計測開始と停止トリガ条件および検索条件の設定」に記述しています。

スクロール操作は、計測を停止しているときにのみ可能です。計測中のスクロール操作はできません。また、検索操作は横軸（時間軸）の縮小率を1にして実行してください。

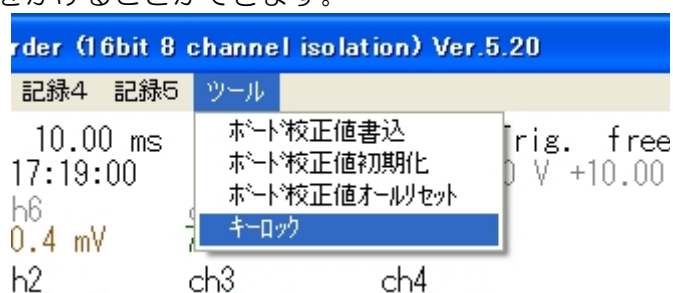
操作キー	機能
↑（上矢印）	計測最終位置へジャンプします。
↓（下矢印）	計測開始位置へジャンプします。
→（右矢印）	画面を左スクロールしながら、新しい時刻位置へ移動します。 シフトキーを押しながら右矢印キー押し続けると、高速移動します。 検索条件を指定して、コントロール（C t r l）キーを押しながら右矢印キーを押し続けると、条件が一致するまで、高速に移動し、一致したデータが見つかったと、その位置に黄色のトリガ条件一致マークをつけて停止します。次の検索を続けるためには、いったんキーを離して、再度、押し続けます。
←（左矢印）	画面を右スクロールしながら、古い時刻位置へ移動します。 高速移動操作と検索操作は上記と同じ。

## (18) 計測中のスケール線表示消去

\$キーを押すと、計測中のスケール線表示をしなくなります。  
もう一度、\$キーを押すともとにもどります。

## (19) キーロック機能

長時間の計測などのとき、不用意にキーまたはマウスに触れることによるトラブルを回避するため、キーロックをかけることができます。



「ツール」をクリックすると、「キーロック」を表示します。「キーロック」をクリックするとキーロック状態となり、キーボードおよびマウスの操作ができなくなります。キーロック中は画面に赤字にて「キーロック」と表示します。

再度キーロックをクリックすると、再び操作可能な状態になります。

**（注意）** キーロックとしても、Windows関連のキー操作は可能ですので、Windowsの終了操作などをすると、キーロック中でも本プログラムが停止します。

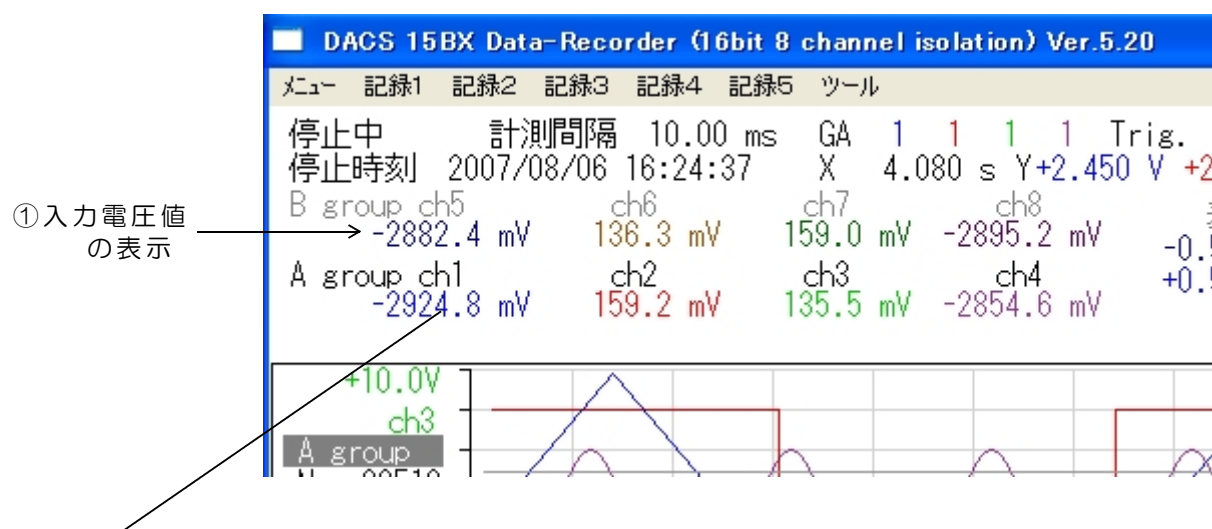
表 3. 1 キー操作対応表

キー	マウス	説 明
G	○	計測開始
S	○	計測停止
	○	最大データ数設定
a A	○	a (ch1または5) A (ch2または6)
b B	○	b (ch3または7) B (ch4または8)
T	○	計測間隔 (サンプリング間隔) 設定
C	○	トリガチャンネル変更
+	○	トリガ方向を+に変更
-	○	トリガ方向を-に変更
	○	トリガ電圧設定
F	○	フィルタ変更
D	○	操作対象チャンネルグループ変更
K k	○	グラフ縦軸表示倍率 (c h 1, 5) 変更
L l	○	グラフ縦軸表示倍率 (c h 2, 6) 変更
M m	○	グラフ縦軸表示倍率 (c h 3, 7) 変更
N n	○	グラフ縦軸表示倍率 (c h 4, 8) 変更
Y	○	波形表示位置変更
X x	○	横軸 (時間軸) 縮小率 (大文字 増加 小文字 減少)
O	○	入力モード (DCキャンセル) c h 1, 5 変更
P	○	入力モード (DCキャンセル) c h 2, 6 変更
Q	○	入力モード (DCキャンセル) c h 3, 7 変更
R	○	入力モード (DCキャンセル) c h 4, 8 変更
	○	オフセットバランス機能選択
I	×	高速データ積算機能解除/設定
J	○	高域周波数ノイズ除去機能設定
↑	×	モニタ画面スクロール (計測最終位置へジャンプ)
↓	×	モニタ画面スクロール (計測開始位置へジャンプ)
→	×	モニタ画面左スクロール (新しい時刻位置へ移動)
←	×	モニタ画面右スクロール (古い時刻位置へ移動)
<	○	計測開始トリガ条件の設定
>	○	計測停止トリガ条件の設定
—	○	通常のトリガ動作条件の設定
/	○	モニタ画面スクロール時の検索条件設定
\$	×	計測中のスケール線表示消去
○は操作可能 ×または空白は操作不可		

### 3. 2 計測内容の表示

#### (1) 入力チャンネル電圧値表示

計測開始にて、入力チャンネルの電圧値をリアルタイムに表示します。



(参考) 計測ユニット内部の高速積算機能と計測ソフトウェアの特殊フィルタリング処理により、表示桁最下位までをリニアに表示します。

高分解能版のサンプリング間隔 2 m s 以上

ゲイン1	の表示桁	± 9 8 9 9 . 9 m V
ゲイン1 0		± 9 8 9 . 9 9 m V
ゲイン1 0 0		± 9 8 . 9 9 9 m V

12bit版、および高分解能版のサンプリング間隔 2 m s 未満

ゲイン1	の表示桁	± 9 8 9 9 m V
ゲイン1 0		± 9 8 9 . 9 m V
ゲイン1 0 0		± 9 8 . 9 9 m V

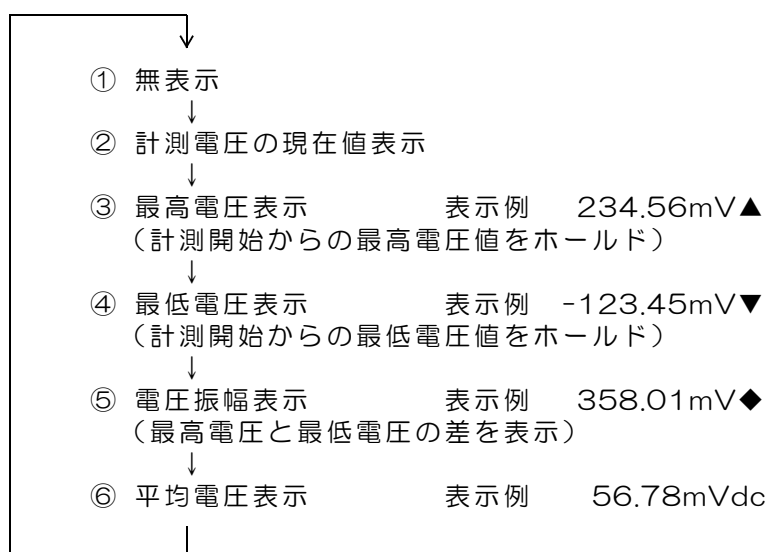
表示電圧の精度は、第1項にある「精度表」に記述しているとおりです。  
最下位桁までの精度を保証しているものではありませんのでご注意ください

## (2) 計測電圧値拡大文字表示 (最高/最低/振幅/平均値)



チャンネル計測電圧表示の下部位置に、計測電圧値を拡大文字にて表示します。  
拡大文字にて表示するチャンネルは、波形表示画面の縦軸目盛を選択したチャンネルとなります。

計測電圧の拡大文字表示部分をマウスにて左クリックすると、次のように表示電圧の内容が変化します。



### (3) 波形のグラフ表示

8チャンネル分の波形をグラフ表示します。

#### 計測間隔を 2 m s 以上に設定した場合

計測を開始すると、ペンレコーダと同様に、画面右端から波形描画を開始し、時間経過に従って、左方向にスクロールしてゆきます。スクロール速度は、画面1ドット/計測間隔 となります。時間軸縮小表示率が1以外の場合は、画面1ドットが[時間間隔×縮小表示率]に相当するようにスクロールします。

トリガを有効とすると、トリガ点に黄色の縦線を表示します。トリガ後、そのままスクロールを継続し、トリガ点が、画面の中央に位置した時点で、自動的に計測を停止します。

#### 計測間隔を 2 m s 未満に設定した場合

計測を開始すると、オシロスコープと同様に、画面の左端から描画します。右端まで描画すると、ふたたび左端に戻って描画を繰り返します。トリガを有効とすると、トリガ点を画面左端として描画を繰り返します。

### (4) トリガ状態の表示

信号のトリガ状態を表示しています。

#### 計測間隔 2 m s 以上のとき、

トリガがかかっていないときは、T r i g. 停止 と表示しており、波形表示は、そのまま継続し、画面スクロールを続けます。トリガがかかると、T r i g. あり と表示し、トリガ点に黄色の縦線を表示して、そのままスクロールを継続し、トリガ点が、画面中央に位置した時点で、自動的に計測を停止します。

トリガが無効のときは、トリガ電圧部分に T r i g. F r e e と表示しています。

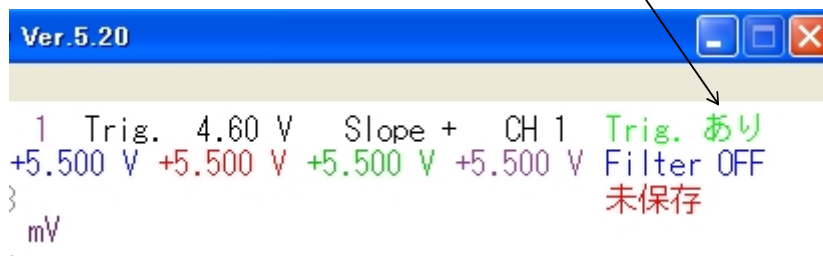
#### 計測間隔 2 m s 未満のとき、

トリガがかかっていないときは、T r i g. 停止 と表示しており、波形表示も更新されませんので、波形表示は旧データのままで停止しています。

トリガがかかると、T r i g. あり と表示し、新しい波形表示を繰り返します。

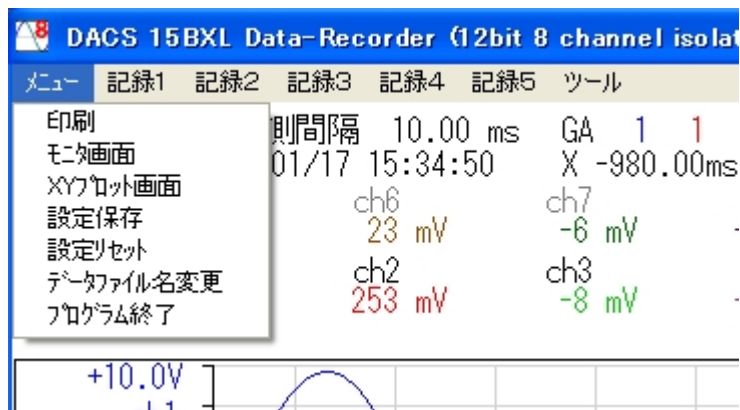
トリガが無効のときは、トリガ電圧部分に T r i g. F r e e と表示しており、トリガがかからないまま、F r e e R u n にて、新しい波形表示を繰り返します。

トリガ状態の表示



## (5) X Y 表示

メニューをクリックすると、「モニタ画面」「XYプロット画面」を表示します。



「XYプロット画面」をクリックすると「XY表示」モードになり、計測を開始すると、XY表示にて画面描画します。「モニタ画面」をクリックするとモニタ表示モードに戻ります。表示を切換えると、それまでの表示画面を消去します。

記録データを読み込む場合も、この機能にて、いずれの表示をするかを選択することができます。

第1系統	ch1入力	Y（縦）方向	ch2入力	X（横）方向
第2系統	ch3入力	Y（縦）方向	ch4入力	X（横）方向
第3系統	ch5入力	Y（縦）方向	ch6入力	X（横）方向
第4系統	ch7入力	Y（縦）方向	ch8入力	X（横）方向

以上の4系統を同時表示します。

表示させない系統がある場合は、その系統の入力チャンネルを、画面左下にある DC/AC/▼ 切換にて、無表示▼ としてください。

### 3. 3. 計測開始と停止トリガ条件および検索条件の設定

計測する信号の入力電圧条件により、自動的に計測を開始したり停止したりすることができます。

(注意) 計測開始／停止トリガ条件が有効となるのは、計測間隔が2ms以上のときです

マウスにて下図の操作をするか、またはキー入力にて「トリガ条件設定モード」を変更します。

キー入力の場合	< (左カギ括弧) キー にて「開始 p」 > (右カギ括弧) キー にて「停止 p」 _ (アンダーバー) キー にて「Trig.」 / (スラッシュ) キー にて「検索 p.」
マウス操作の場合	Trig.部分を左クリックすると、 → Trig->開始 p->停止 p->検索 p → と変化します。



Trig. 通常のトリガ動作を指定します。  
機能詳細は「3. 2 項 計測内容の表示」をご覧ください。

開始 p 計測開始条件を指定します。  
条件指定は、(1) トリガ電圧 (2) Slope (3) チャンネル番号で、指定方法は、Trig. の場合と同様です。  
チャンネル番号0を指定すると開始条件無指定となり、計測開始操作をすると、ただちに計測と画面表示をはじめます。ソフト起動時はこの状態です。ただし、計測開始条件を設定して、パラメータ保存操作をすると、ソフト起動時には、設定した内容となります。  
チャンネル番号に0以外(1~8)を指定すると、開始条件指定となり、次のような動作をします。

モニタ表示画面のとき

計測開始操作と同時に、画面表示を実行します。  
サンプリング数カウンタは、計測開始操作と同時にカウントを実行します。  
計測開始条件が成立すると、サンプリングカウンタが0となり、そこからあらたにデータ格納をはじめます。  
画面表示はそのまま続きます。

#### XY表示画面のとき

計測開始操作をしても、画面表示は計測開始条件が成立するまで実行しません。

サンプリング数カウンタは、計測開始操作と同時にカウントを実行します。

計測開始条件が成立すると、サンプリングカウンタが0となり、そこからあらたにデータ格納をはじめ、画面表示もそこから開始します。

#### 停止p

計測停止条件を指定します。

条件指定は、(1)トリガ電圧 (2) Slope (3) チャンネル番号で、指定方法は、Trig. の場合と同様です。

チャンネル番号0を指定すると停止条件無指定となります。ソフト起動時はこの状態です。ただし、計測停止条件を設定して、パラメータ保存操作をすると、ソフト起動時には、設定した内容となります。

チャンネル番号に0以外(1~8)を指定すると、停止条件指定となり、条件が一致した時点で計測を停止します。

計測停止条件は、計測開始条件が成立したあとに有効になります。

計測開始条件が成立したあとか、または計測開始条件無指定の場合に、停止条件が成立すると、計測を停止します。

計測開始条件を指定した場合で、開始条件が成立していないときは、停止条件が成立しても、計測を停止することはありません。

#### 検索p

モニタ画面スクロール操作時の検索条件を指定します。

条件指定は、(1)トリガ電圧 (2) Slope (3) チャンネル番号で、指定方法は、Trig. の場合と同様です。

検索操作方法は、3. 1 項(17)

「モニタ画面スクロールと検索操作」をご覧ください。

トリガ電圧の指定方法は、「3. 1 項 キーおよびマウス操作(4)トリガ電圧設定」を参照ください。

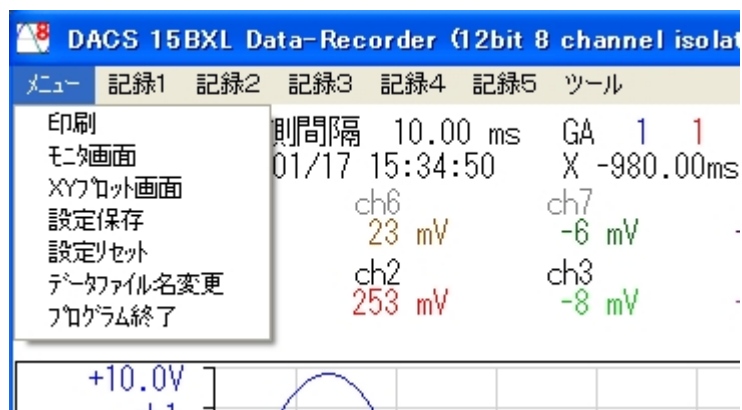
XY表示での横軸チャンネルのトリガ電圧を指定する場合は、いったんモニタ画面に切換えて、該当するチャンネルの電圧を指定してください。

トリガは指定チャンネルの電圧値と電圧スロープが一致したときに条件成立となります。スロープ指定ですので、たんにトリガ電圧値をこえているだけでは条件成立とはなりません。たとえば、Slope + を指定した場合、計測直後に入力電圧がトリガ電圧値よりも+側にあったとしても、条件成立とはなりません。入力電圧がいったんトリガ電圧以下となり、その後、トリガ電圧をこえて+側になると、そこで条件成立となります。



### 3. 4 印刷と記録および設定の保存／読込、データファイル名変更

メニューをクリックすると、  
「印刷」「設定保存」「設定リセット」「データファイル名変更」「終了」を表示します。



- (1) 「印刷」をクリックすると画面のハードコピーをプリンタに出力します。  
用紙サイズは、A4です。
- (2) 「設定保存」をクリックすると、計測間隔などの設定をファイルに保存します。  
この保存内容は、次のプログラム起動時に、ファイルからロードし初期設定値となります。プログラム起動時に、設定ファイルがない場合は、デフォルト値に設定します。

保存する内容	デフォルト値
計測間隔	10ms
積算回数	1
アンプゲイン	×1
トリガ電圧	0V
トリガスロープ	+
トリガチャンネル	0(free)
フィルタ設定	OFF
グラフ表示倍率	×1
波形表示位置	中央0V位置
各chマウスY軸位置オフセット	中央0V位置
DC/AC/▼	DC
計測開始／停止トリガ条件	通常トリガと同じ状態

設定ファイル名 D151ADL.par  
保存フォルダは、実行ファイルのあるフォルダと同じです。

- (3) 「設定リセット」をクリックすると、計測間隔などの設定値を、デフォルト値に設定します。リセットする項目は、(2)の保存対象項目と同じです。  
「設定リセット」で、設定保存ファイルの内容が変更されることはありません。

- (4) 「データファイル名変更」をクリックすると、記録データのファイル名を変更することができます。

記録データファイル名は D 1 5 1 A D L 1 \_ 0 . c s v のように、先頭6文字の固定部分（デフォルト文字列 D 1 5 1 A D）と、それに続く記録番号などからなる部分からなっています。このうちの先頭 D 1 5 1 A D 6文字を、「データファイル名変更」にて任意の文字列に変更することができます。

「データファイル名変更」をクリックすると、画面2行目の左端に、ファイル名（6文字）XXXXXX と表示がでますので、英数字キー、BSキーを使用して、ファイル名を入力します。ファイル名として使用可能な文字は、英字（大文字および小文字）、数字、アンダーバー（\_）、右括弧および左括弧となっています。それ以外の記号、半角カタカナ、全角文字は使用できません。

最初は、現在設定しているファイル名（6文字）を表示しています。BSキーを使用して、不要な文字を削除してください。



ファイル名入力後、エンターキーを押して、ファイル名を確定します。ESCキーを押すと入力操作をキャンセルできます。

- (注1) 変更可能なのは、先頭6文字の部分のみです。それに続く記録番号などからなる部分、および拡張子（c s v）は変更できません。
- (注2) 指定文字列の長さは6文字の固定長です。6文字以下を指定した場合は、不足する部分にアンダーバー（\_）が自動的に追加となります。
- (注3) 変更したファイル名は、計測ソフトを終了するまで有効となります。変更したファイル名を、計測ソフト起動時に有効とする場合は、「設定保存」操作をする必要があります。「設定リセット」を行うと、デフォルトのファイル名 D 1 5 1 A D --- に戻ります。計測ソフト起動時にもデフォルト名に戻すには、「設定保存」操作をする必要があります。

- (5) 「プログラム終了」をクリックすると計測プログラムを終了します。

記録1～記録5をクリックすると、「保存」「読み」「計測」「高速読み」「拡張読み」を表示します。



- (1) 「保存」をクリックすると、記録番号に対応したファイル名のファイルに、計測データを保存します。また、計測データと共に、各種の設定値も保存します。

データと共に保存する設定項目

計測間隔 積算回数 アンプゲイン  
トリガ電圧, トリガスロープ, トリガチャンネル  
フィルタ設定 ー> (注) 読み時の設定はありません。  
計測サンプリング数 (最大524288点)  
停止時刻 (計測日時)

保存データ

最大サンプリング数にて設定したデータ数分のデータを、ファイルに保存します。全チャンネルのAD変換値を保存します。途中で計測を強制停止した場合のように、計測サンプリング数が、最大サンプリング数に満たないときは、実際にサンプリングしたデータ数が保存対象となります。

最大サンプリング数に0を設定し、エンドレスの計測とした場合で、最大値の524288サンプリングを超えた場合は、停止操作をしたときのデータを最終データとして、それ以前の524288個のデータを保存します。

(注1) フィルタ有効となっているときも、フィルタ処理がおこなわれていないデータを保存します。

(注2) オフセットバランス機能を有効としている場合は、オフセットをキャンセルしたデータを保存します。

実行ファイルのあるフォルダ内に、フォルダRC1～RC5を自動生成して、そのフォルダに保存します。

ファイル名と記録番号の対応

(注) 先頭の6文字 (D151AD) は、ファイル名変更操作にて任意の文字とすることができます。

記録1 保存ファイル

D151ADL1\_0. csv パラメータ部分  
D151ADL1\_1. csv 最初の65536個のサンプリングデータ  
D151ADL1\_2. csv 次の65536個のサンプリングデータ

⋮

D151ADL1\_8. csv 最後の65536個のサンプリングデータ  
サンプリングデータ数により、ファイルの数異なります。

記録2 保存ファイル

D151ADL2\_0. csv ～ D151ADL2\_8. csv

記録3 保存ファイル

D151ADL3\_0. csv ～ D151ADL3\_8. csv

記録4 保存ファイル

D151ADL4\_0. csv ～ D151ADL4\_8. csv

記録5 保存ファイル

D151ADL5\_0. csv ～ D151ADL5\_8. csv

- (2) 「**読込**」をクリックすると、記録番号に対応したファイル名のファイルから、計測データを読み込みます。また、計測データと共に、各種の設定値も、保存データから設定します。  
読取り実行中は、グラフ右端に描画し、順次、左方向にスクロールをしてゆきます。  
データ読込途中で、読込動作を中断したい場合は、  
Sキーを押すか、画面の上段／左側にある「読込中」の表示をマウスクリックすると、強制停止できます。

フィルタ設定は、ファイル内容の値を再設定しません。

このため、読込時には、保存時と異なるフィルタ設定にて読取ることができます。

- (4) 「**計測**」をクリックすると、サンプリングデータ取得ごとに（実時間にて）、指定ファイルに自動的に計測データを書き出すことができます。  
保存するファイル名はファイル保存動作と同じです。

この動作は、サンプリング間隔 2 m s 以上の計測に限定されています。  
サンプリング間隔 2 m s 未満では、自動保存機能は無効となります。

**自動ファイル保存機能を使用する場合は、最大サンプリング数の指定は0個（最大数指定なし）としてください。**

自動ファイル保存動作をしないで計測をする場合は、  
Gキーを押すか、「停止中」をマウスクリックして開始してください。  
この場合、計測したデータは、メモリ上のみに記録してゆきます。

自動ファイル保存をしない通常の計測では、最大サンプリング数が 5 2 4 2 8 8 を越えると、メモリー上で、もっとも古いデータを消去しながら、新しいデータを上書き保存してゆきます。一方、この自動ファイル保存動作では、この制限を越えると、新しいデータを記録するファイル名を、下記のように変更して、それまで記録しているファイルを消去することなく、新しいファイルに次のデータを記録してゆきます。すなわち、メモリー上では最大サンプリング数 5 2 4 2 8 8 の制限がありますが、この自動ファイル保存動作では、さらにこの4倍の記録容量が確保できます。

生成するファイルは、最大で32個に分割します。  
ファイル1個あたり6MBサイズとなりますので、保存するハードディスクには、200MB以上の空き容量が必要です。  
また、記録1から5まですべての記録には、1GBが必要となりますので、ハードディスクの空き容量に注意してください。

ファイル名 D151ADLx\_1.csv ~ D151ADLx\_8.csv 最初の分割ファイル8個  
D151ADMx\_1.csv ~ D151ADMx\_8.csv つぎの分割ファイル8個  
D151ADNx\_1.csv ~ D151ADNx\_8.csv つぎの分割ファイル8個  
D151AD0x\_1.csv ~ D151AD0x\_8.csv 最後の分割ファイル8個  
(x は記録番号1~5です。)

これにて、 $524288 \times 4 = 2097152$  個までのデータを記録することができます。

特別拡張記録機能を使用すると、さらにファイル記録を継続し、最大で約6億点の連続記録を行うことができます。  
特別拡張記録機能については「応用説明書」をご覧ください。

最後のファイルまで記録した場合は、その時点にてファイル記録は終了しますが、計測動作はそのまま継続します。

この機能を使用して保存したファイルを、読込機能にて画面表示する場合は、  
(4) 項に説明する高速読込と拡張読込を使用してください。

**記録後に、同一記録番号にて、続けて次の記録を実行する場合は、  
記録済ファイルの名前を変更するか、あるいは別のフォルダにコピーをしてから実行  
してください。そのまま、同一記録番号にて、次の記録を実行すると、  
それまで記録したファイルは消去されます。**

- (4) 「**高速読込**」をクリックすると、読込途中には、データの波形表示を実行しません  
ので、高速にデータを読込むことができます。

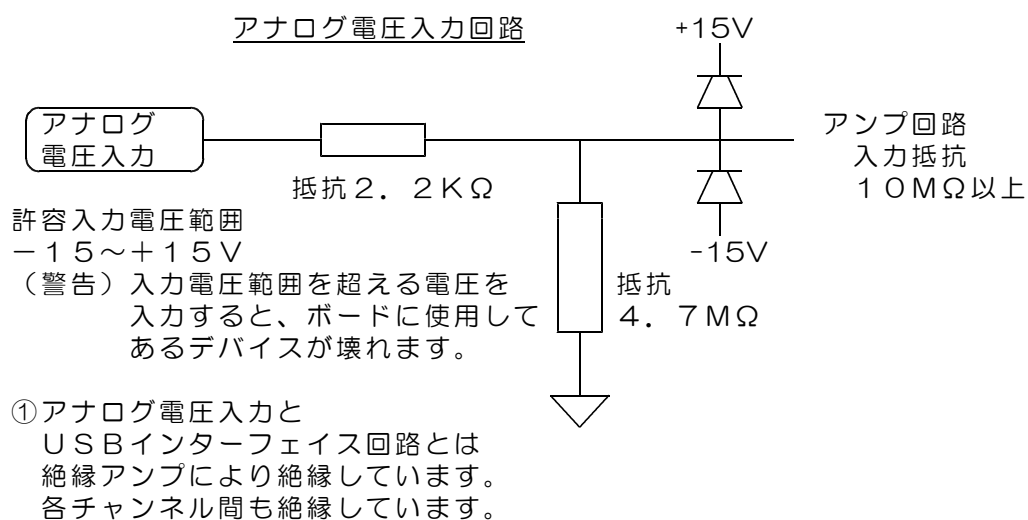
参考： 読込終了後に画面スクロールにて、読込済データの確認ができます。

「**拡張読込**」にて、拡張データB～Dをクリックすると、自動ファイル保存にて記  
録した計測データを読込むことができます。

ファイル名	D151ADLx_1.csv～D151ADLx_8.csv	「高速読込」または「読込」にて読込
	D151ADMx_1.csv～D151ADMx_8.csv	拡張データBにて高速読込
	D151ADNx_1.csv～D151ADNx_8.csv	拡張データCにて高速読込
	D151AD0x_1.csv～D151AD0x_8.csv	拡張データDにて高速読込
	(x は記録番号1～5です。)	

## 4. 入力信号の仕様

CN1	アナログ電圧ch1入力コネクタ	(BNC)
CN2	アナログ電圧ch2入力コネクタ	(BNC)
CN3	アナログ電圧ch3入力コネクタ	(BNC)
CN4	アナログ電圧ch4入力コネクタ	(BNC)
CN5	アナログ電圧ch5入力コネクタ	(BNC)
CN6	アナログ電圧ch6入力コネクタ	(BNC)
CN7	アナログ電圧ch7入力コネクタ	(BNC)
CN8	アナログ電圧ch8入力コネクタ	(BNC)



② アナログ電圧入力端子のDC入力に対してAD変換レベルを調整しています。

---

---

8chアナログ入力  
15BXL-816 または 812 製品内容

製品の名称	USB接続 計測ユニット 15BXL-816 または 812	
標準構成	15BXL-816 または 812 計測ユニット ACアダプタ ワニグチクリップ付きBNCケーブル 1.5m USBケーブル 5m BNCコネクタ防塵キャップ 計測プログラム／デバイスドライバ ／取扱説明書（PDFファイル） CD-ROM 校正ファイルの入ったUSBメモリ 取扱説明書	1台 1個 8本 1本 8個  1枚 1個 1部

製造販売

ダックス技研株式会社  
ホームページ <http://www.dacs-giken.co.jp>